

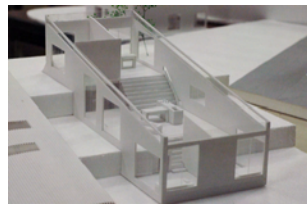
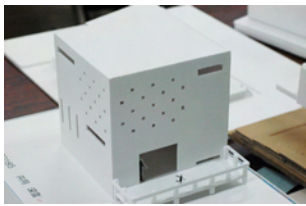
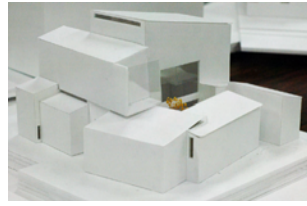
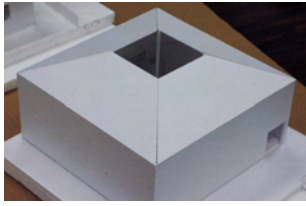
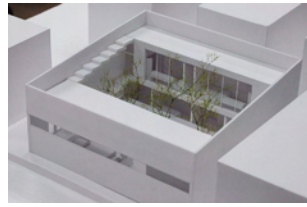
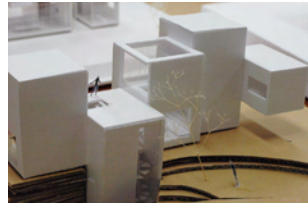
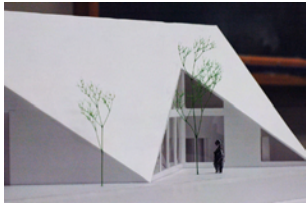
近畿大学工学部建築学科 作品集

Department of Architecture, Faculty of Engineering, Kinki University

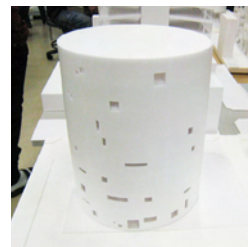
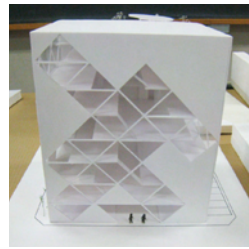
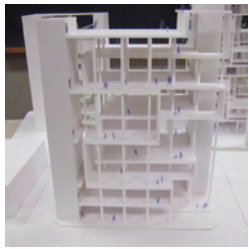
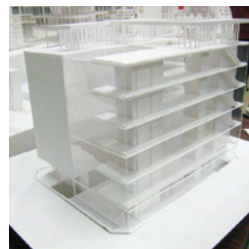
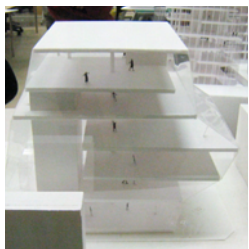
CONTENTS

1	2年後期 建築設計演習 I	...	2
	01 「将来の自邸」		
	02 「事務所ビル」		
2	3年前期 建築設計演習 II	...	3
	01 「現代美術のための美術館」		
	02 「集合住宅」		
3	3年後期建築設計演習 III	...	5
	01 「小学校」		
	02 「複合施設」		
	03 「集中演習 with エジンバラ芸術大学 & タマサート大学」		
4	卒業設計・卒業制作	...	9
	01 連なる景観 ～100m × 3.9kmへの介入～	安藤美有紀	
	02 One's whereabouts ～隔てるもの。つながるもの。～	岡本 麻希	
	03 変わりゆく郊外 ～車の流動性による商業空間～	清水 文靖	
	04 Living space and stuff dimension ～行動はものに従う～	高橋磨有美	
	05 広がる居場所 ～スケールの変化から生じる児童館の空間構成～	松田 尚子	
	06 Worker place ～働く環境を考える～	矢ヶ部史明	
	07 コモレビの下で ～領域変化による保育空間の提案～	山口 和紀	
	08 マチの巣 ～地を貫き重なるスミカ～	邑上 恭子	
	09 小さな学校のミクロな世界 ～ゆらぐ壁による小学校の提案～	佐々木 望	
	10 大きな家 ～農村の新しい風景～	成松 仁志	
	11 家族の距離 ～都市に暮らすために～	平川 紘司	
	12 感情流体	村上 賢宏	
	13 木の下公民館 ～大学と地域をつなぐもの～	安田 浩子	
	14 柱のむこう ～意識を変える場～	山本 紘子	
	15 Conversion 一境界のあり方一	井山 傑	
	16 砂浜にある保育園	遠藤 拓也	
	17 コンパニオンアニマル	松井 遼	
	18 渡る建築 ～行きかう人と人～	鈴江 達也	
	19 和洋折衷 ～Localismへの回帰～	石丸謙二郎	
	20 重なるの先に見えるもの ～機能の連続性による商業空間の新たな提案～	平町 好江	
	21 セイカツノカタチ ～機能空間外設計による集合住宅の提案～	増田 晋	
	22 21+19 ～KOKAGEという空間～	弓削 則人	
	23 S × C × P ～新たな公園のカタチ～	三羽 智彦	
	24 Dress を着る住宅。 ～敷地境界の操作から生まれる新たな町並み～	石井 健太	
	25 野菜生活 ～ポーアイに農があること～	今井 優	
	26 紙のまち ～そこにある紙～	三好 勉	
	27 デキスギ ～design's key point is "SUGI"～	黒田 知世	
5	修士設計	...	37
	01 重層と連続	宮城 麗子	
	02 表徴の境界	胡麻田悟史	
	03 襲的建築研究	松井 俊樹	
	04 螺旋回廊	山田 篤	
6	設計コンペ	...	47

将来の自邸



事務所ビル





特別講師 建築家 梶橋修先生



集合住宅



特別講師 建築家 長谷川豪先生



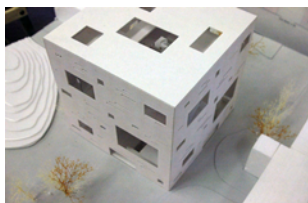
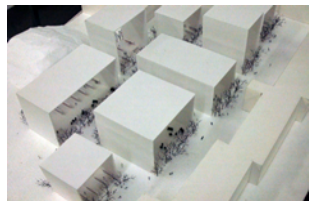
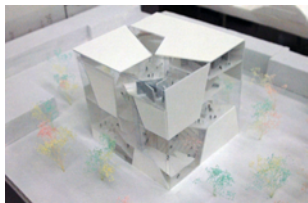
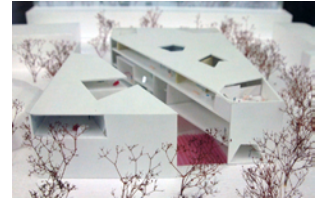
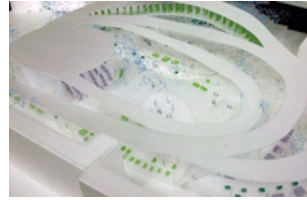
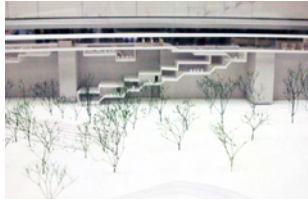
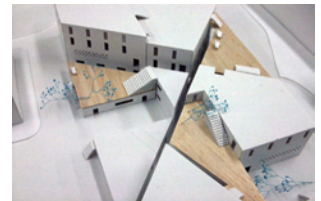
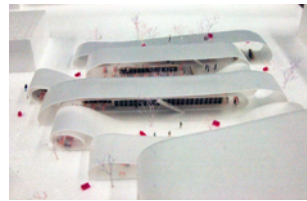
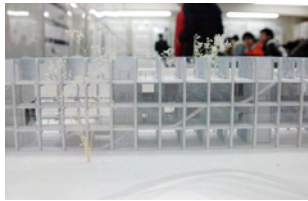
小学校



特別講師 建築家 藤村龍至先生



複合施設



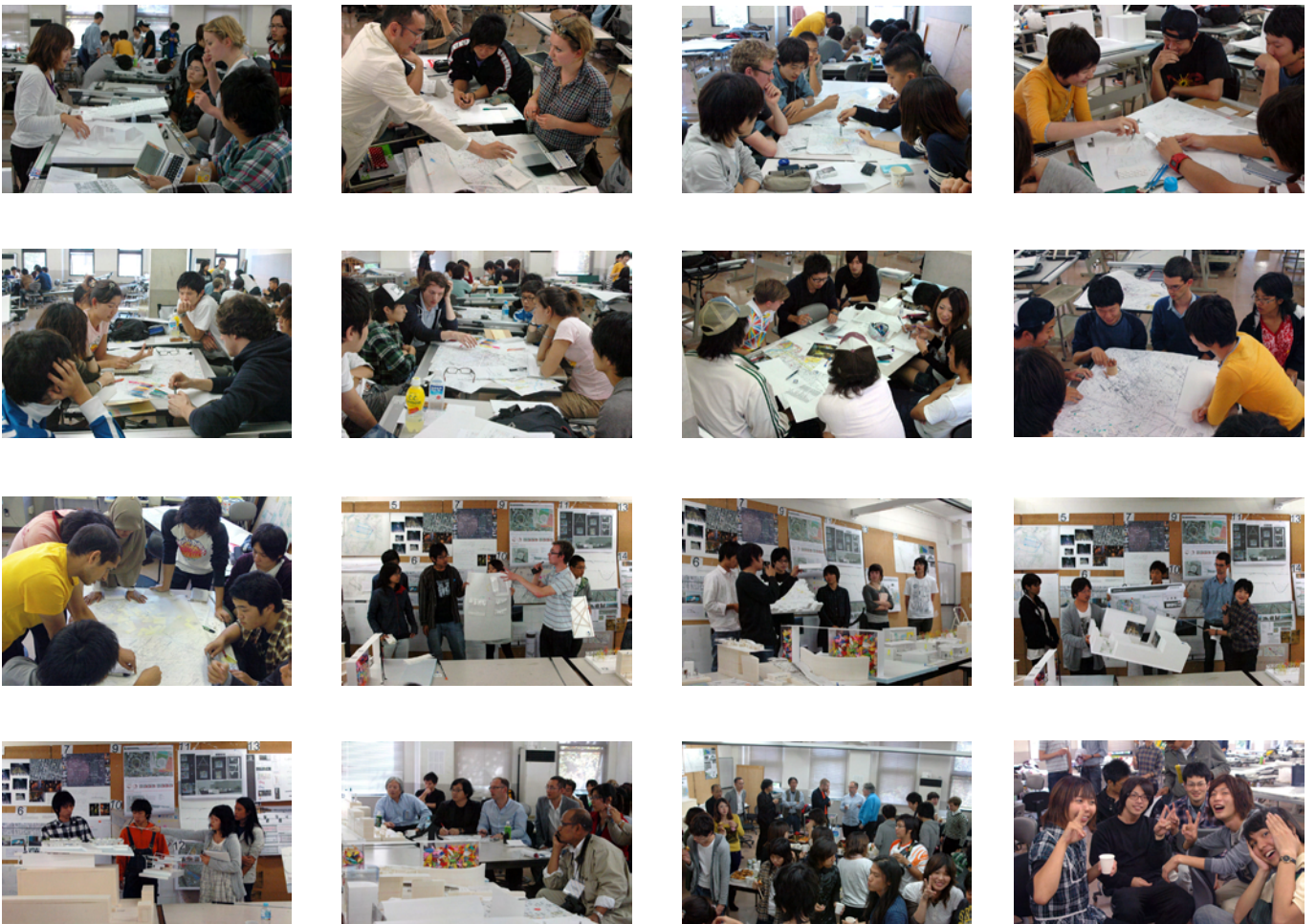
特別講師 建築家 佐々木睦朗先生



集中演習



with エジンバラ芸術大学&タマサート大学





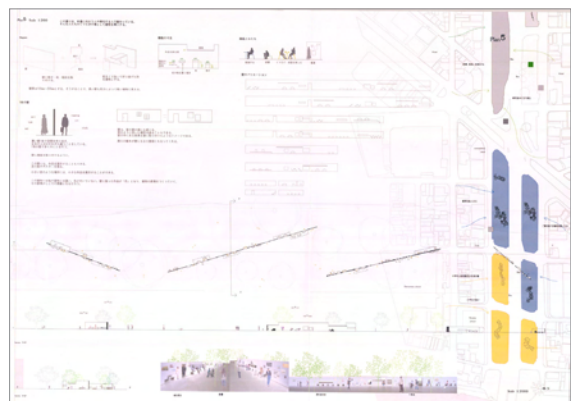
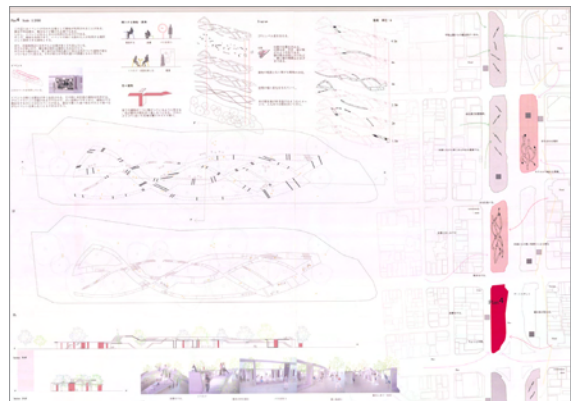
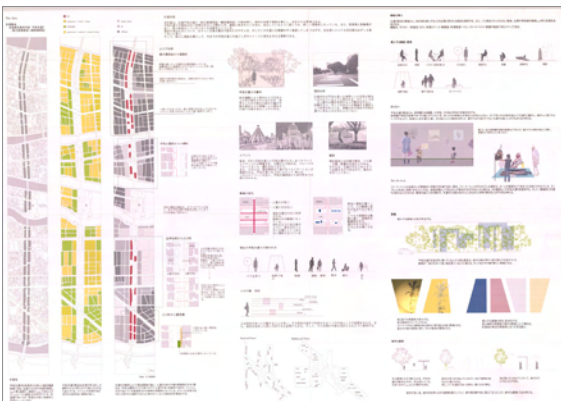
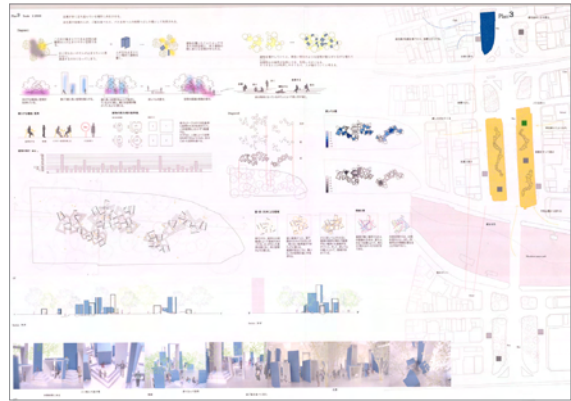
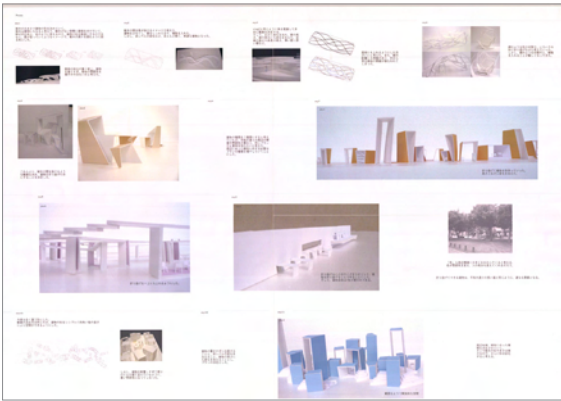
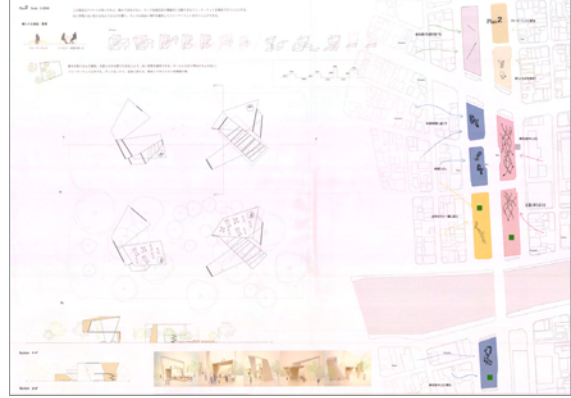
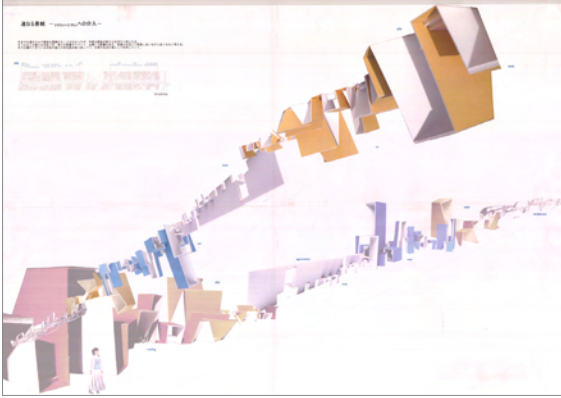
安藤 美有紀
ANDO Miyuki

建築意匠研究室

01. 連なる景観 ～ 100m × 3.9km への介入～

現状の平和大通りの使われ方について、おそらく広島を観光で訪れただけの人は、大してこの大通りを意識せずに通過してしまうはずだ。在住者にとっても存在感は必ずしも高くないと思う。そこで、通行のみで意識することはなかった緑地に本計画を

導入し、新たに緑地を生活の一部とする。今では薄れてきている平和大通りの存在感を取り戻しつつ、日常の生活の場として利用し、平和大通りとその周辺地域が変化していくことを期待する。





02. One's whereabouts ~隔てるもの。つながるもの。~

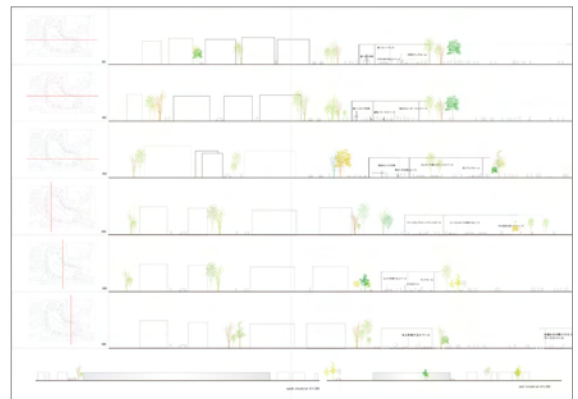
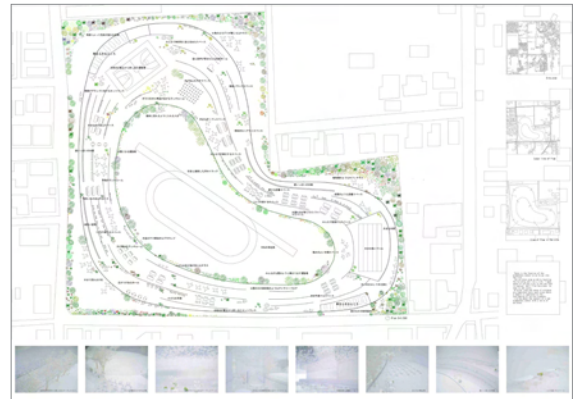
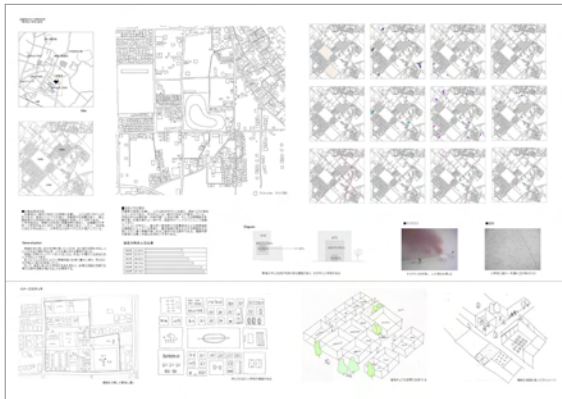
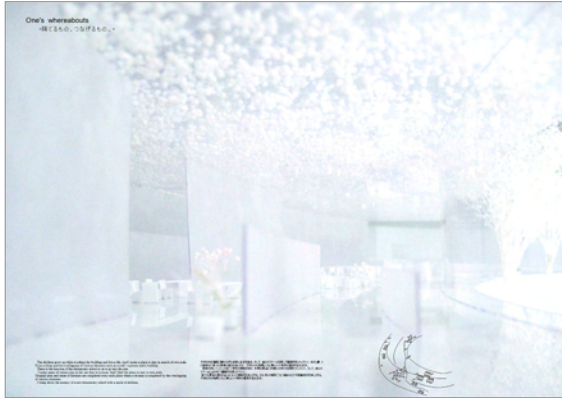
工学会賞 2 席

岡本 麻希
OKAMOTO Maki

建築意匠研究室

子どもたちは建築に触れながら成長し生活を送る。敷地の中に入っていくほど小学校の機能があり、多様な用途に多様な大きさの空間をつかっていく。そして、自らのスケールに合わせて居場所を見つけていく。小学校を地域の人に解放し、子供たち

と地域住民・ものと空間・人と建築の様々な要素の重なりあいによって空間の領域ができあがる。それぞれの場所ごとに独自の広さや距離感が生まれていく。子供たちの笑顔とともに新しい小学校の風景を生み出すことを期待する。





03. 変わりゆく郊外 ～車の流動性による商業空間～

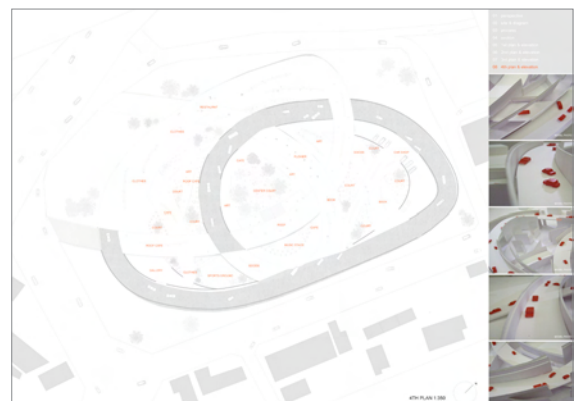
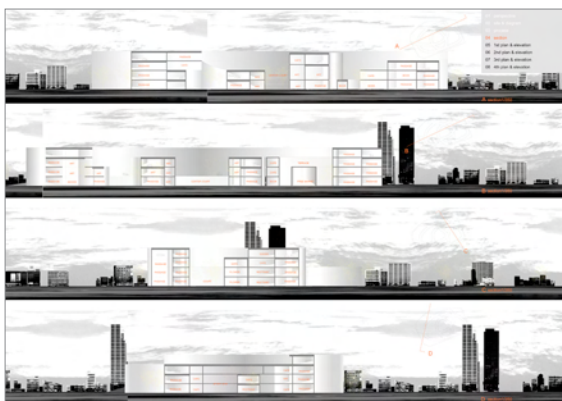
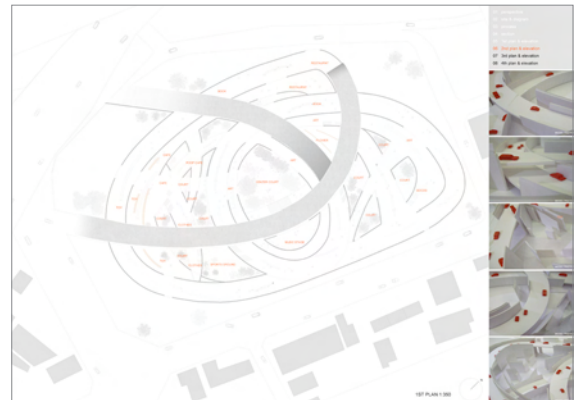
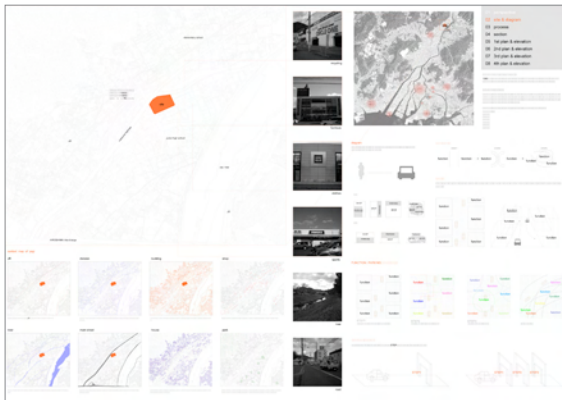
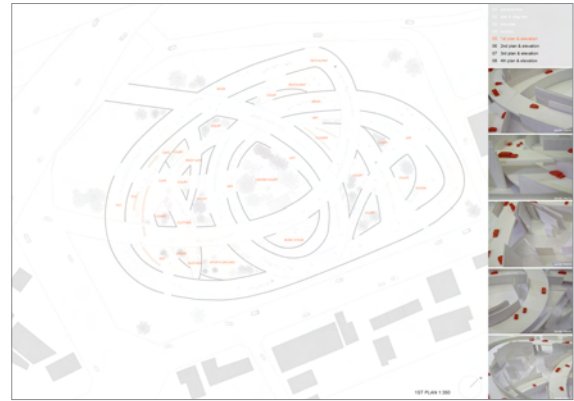
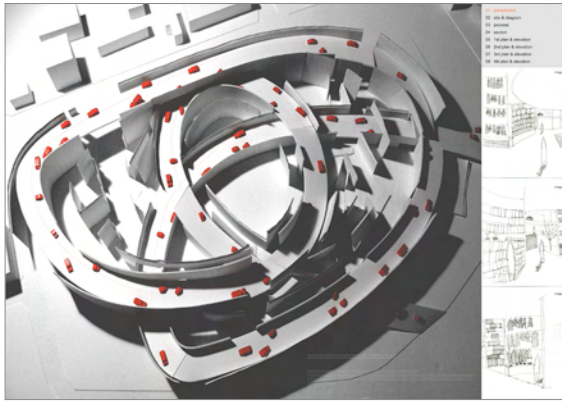
清水 文靖
SHIMIZU Takeyasu

建築意匠研究室

どこにでもある郊外の風景。私にとって身近な風景。そんな身近な風景に都市形態の変化から生まれた建築の形態。そんな建築形態から生まれた郊外の風景を私はさみしく感じる。

本計画は、車社会がもたらした郊外型店

舗の店舗と駐車場の関係性を変えることで新たな商業空間が生まれる可能性を見出せるのではないかと考える。これはまたこれからの未来を構想させる新しい建築として郊外の新たな風景になることを期待する。





04. living space and stuff dimension —行動はものに従う—

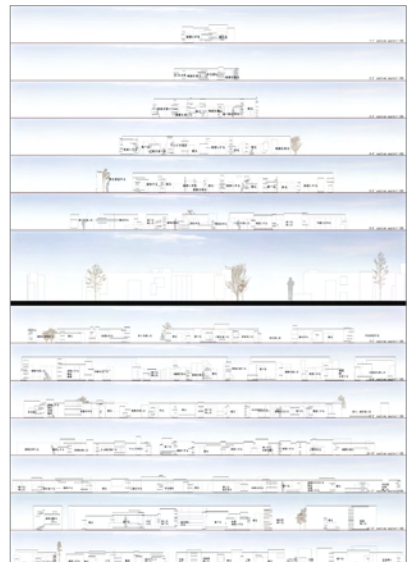
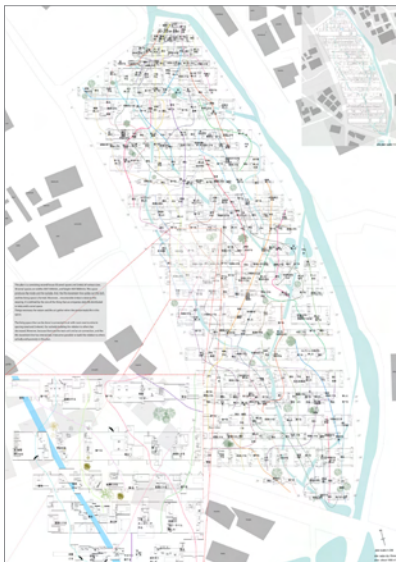
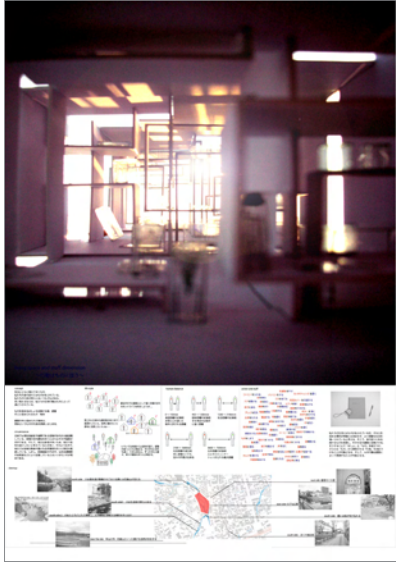
日本建築学会中国支部長賞

高橋 磨有美
TAKAHASHI Mayumi

建築意匠研究室

計画地は愛媛県西条市 ここは古くから湧き水の町として知られている。現在でも、周囲を豊かな自然で囲まれ、良い住環境が整っている。そこに、団塊の世代を対象とした新しい生活のためのセカンドハウスを提案する。

人が行動するときには何か必ずものが開る。人の行為を設定し、利用されるものを細かく想定する。入り組む動線と、流れ出す生活の片鱗、ちりばめられた行為が生活者同士に影響を与え、新たな生活が営まれる。





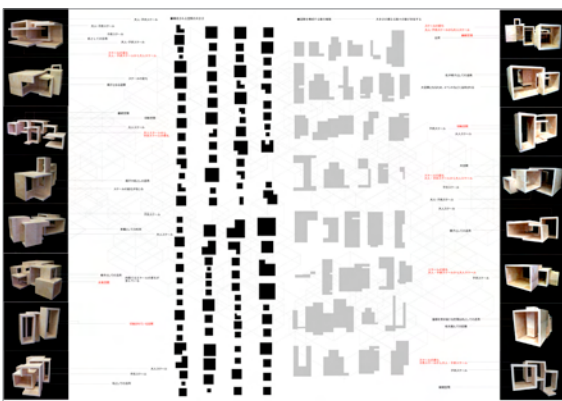
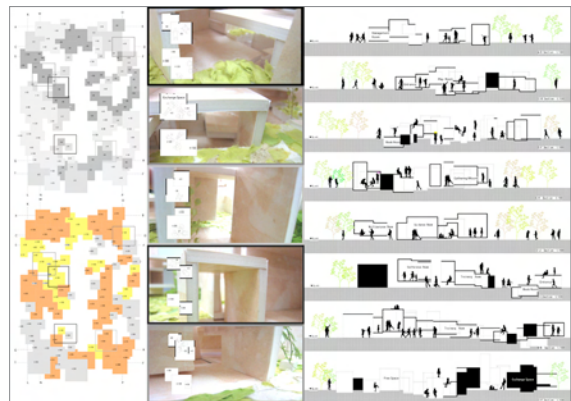
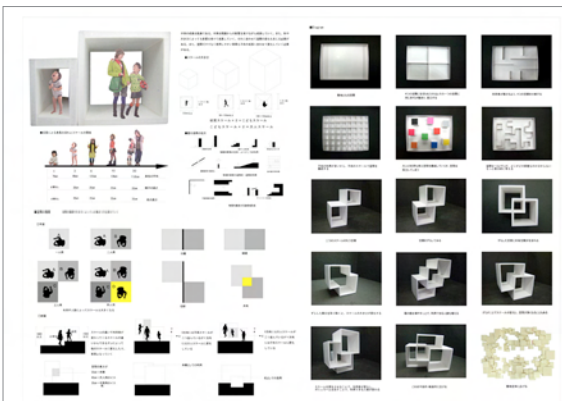
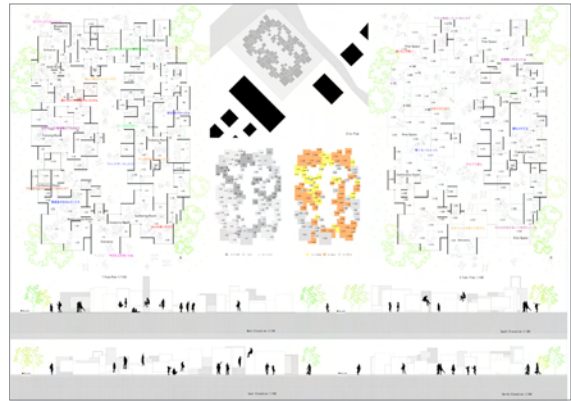
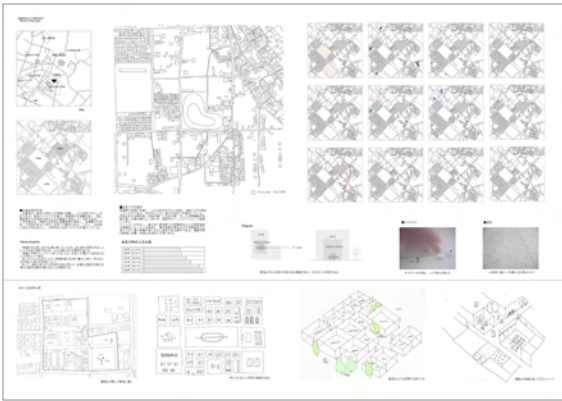
松田 尚子
MATSUDA Naoko
建築意匠研究室

05. 広がる居場所 ～スケールの変化から生じる児童館の空間構成～

現代、「遊ばない、遊べない、遊びを知らない、遊び場がない、遊ぶ時間がない」と言う子供たちが増加してきている。また、そのことにより子供たちの放課後の居場所が確立されていないのではないだろうか。

本計画は、児童館という施設がない小学

校近郊の敷地に、スケールの変化を利用した住民参加型の児童館をつくり、地域に貢献していく提案である。海田町の活性化と、そのことにより、子供たちの居場所の確立を目指していく。





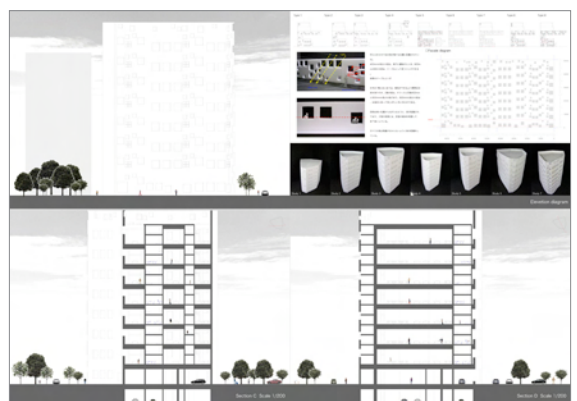
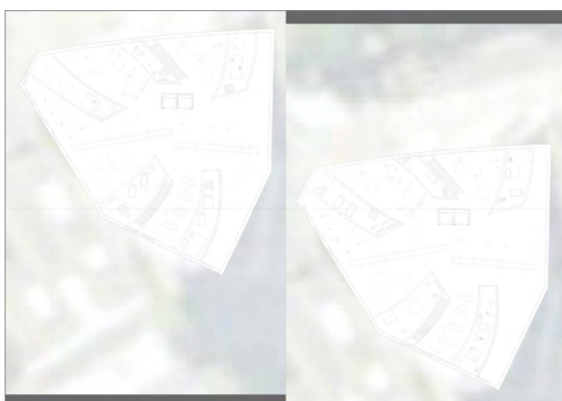
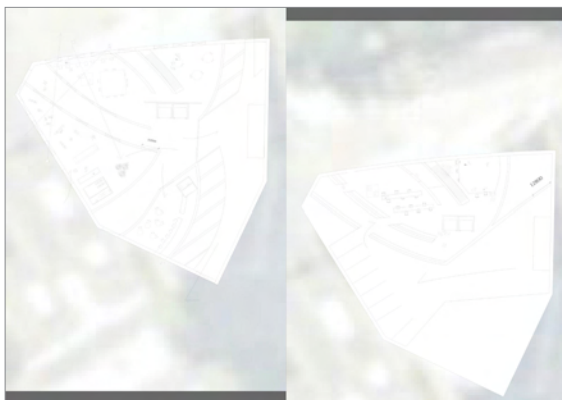
06. WorkerPlace ～働く環境を考える～

矢ヶ部 史明
YAKABE Humiaki
建築意匠研究室

本計画は、Worker が日々過ごす場所であるオフィス空間の社会性に主体性を掛け合わせ、オフィスに新たな働くスタイル、働く環境を提案する。

均質に保たれたオフィススペースはWorker の主体性が空間から排斥され社会

性が強く存在している。人生の多くの時間過ごす場であり日々、長時間 Worker にパブリックな身体に強いる現状のオフィス環境に疑問を感じるとともに、個々の主体性が排斥されている空間の豊かさが存在しないのではないか。





07. コモレビの下で ~領域変化による保育空間の提案~

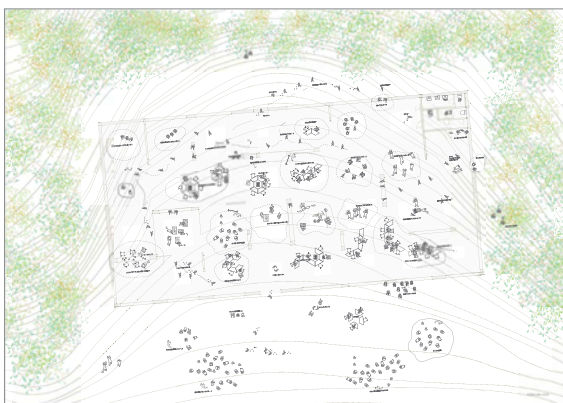
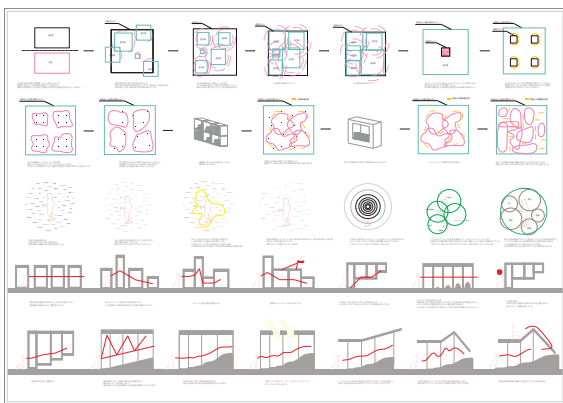
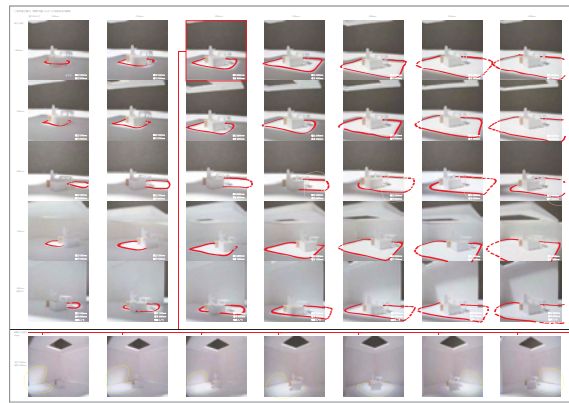
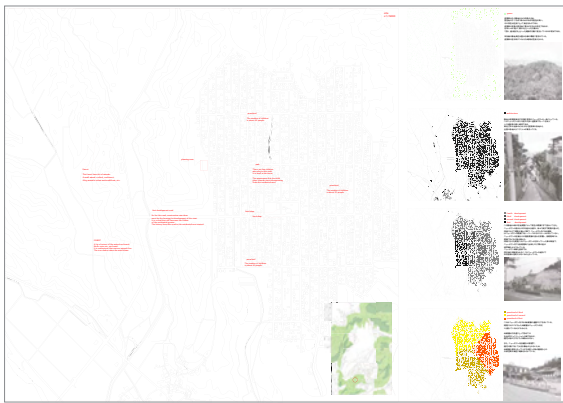
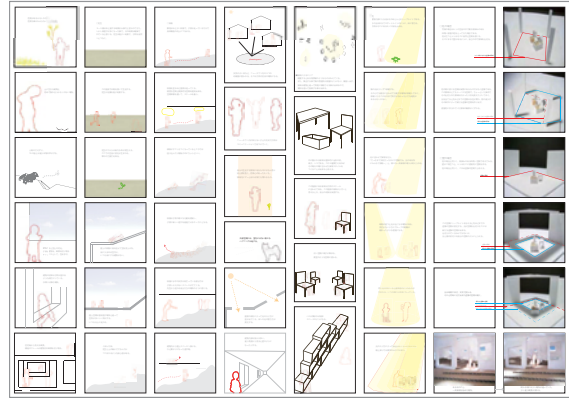
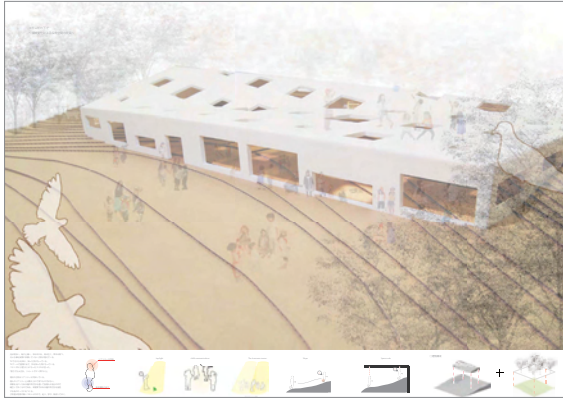
山口 和紀
YAMAGUCHI Kazuki
建築意匠研究室

今の子供は安全のなかに閉じ込められてしまっ、果てし無くリアリティから遠ざけられてしまっている。

個人のリアリティとは教えられて育つものではない。体感し、ある種の気付きを通して、各個人が自分の中で確立してゆくも

のであると考えている。本提案では、そのある種の気付きを誘発する為のキッカケをその空間に挿入している。

垣根のないコモレビの中で、子供は走り、学び、様々なことを吸収してゆくことを期待する。



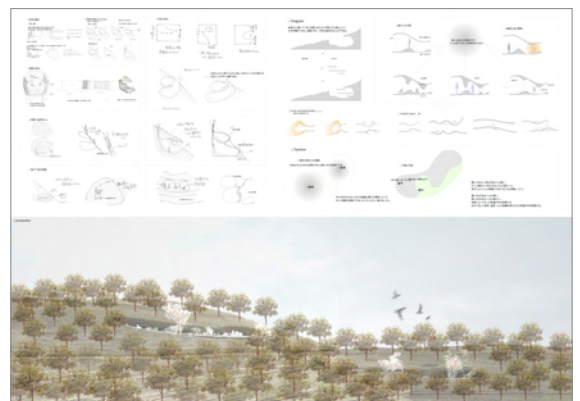
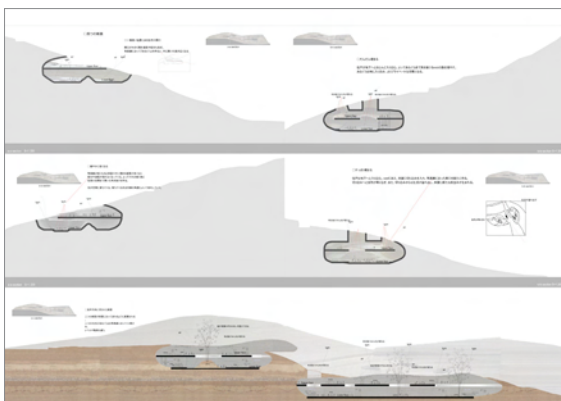
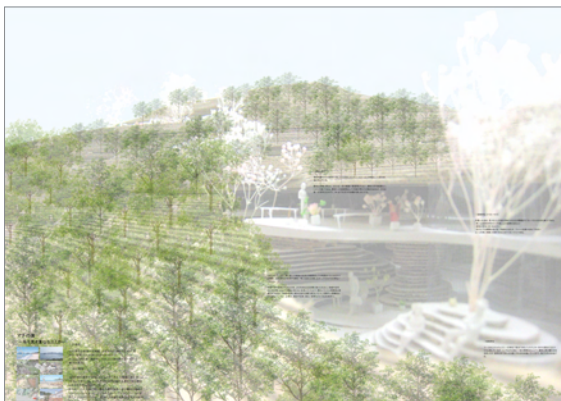
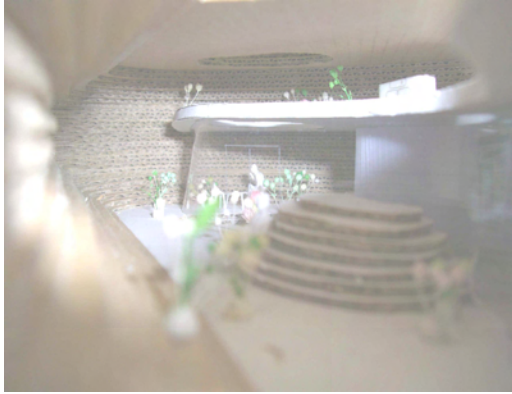


08. マチの巣 ～地を貫き重なるスミカ～

邑上 恭子
MURAKAMI Kyoko
建築計画研究室

斜面に海と山のロケーションを利用し、地に入り込んだ住宅を設ける。地に入り込んだ空間は曲線に囲まれ、地面から屋根が垂れ下がり、柱は床から突き出ている。曲線と地面から張り出したスラブに乗かって暮らすという、普通ではできない暮らしを

造り出したいと考え曲線で成立する空間を提案する。本計画により、斜面という土地が有効利用され、地方圏での集合住宅が、より豊かで魅力的な住まいの空間となることを期待する。



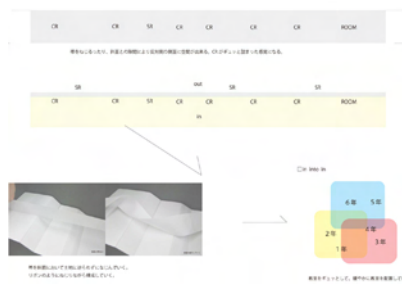
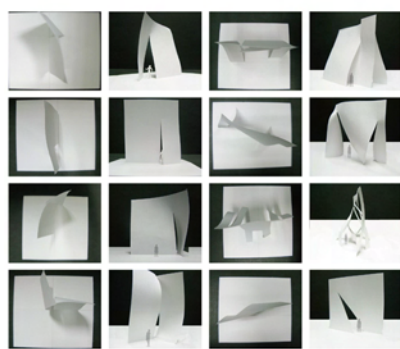


09. 小さな学校のマイクロな世界 ～ゆらぐ壁による小学校の提案～

佐々木 望
SASAKI Nozomu
建築歴史研究室

私たちの生活の中で身近に存在する壁。壁はもはや人間味のなくなった、ただの壁にしかすぎない。壁のあり方を替えることや壁に住むことのよさを見つけることにより、壁から生まれる様々な場所や小学校のプログラムをゆるくする。内にいるようで

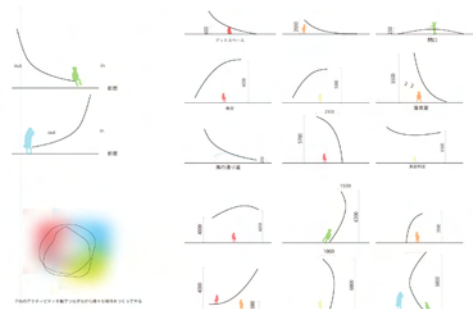
外で授業をしている学校。狭い隙間、小さい場所、大きい場所、毎日行動も授業の場所もかわっていく。小さな学校で壁によって作り出す小さな子供達の集合が大きな風景をつくりだす。



計画で表現もする 周辺の子供学校に侵入し、公園のような場所に

□色
小学校の壁面には様々な色が塗られることが多いが、本計画の小学校の壁面には自然と馴染むような色も多様でない。子供たちが自然の色や木の色に近い色に馴染み、壁によって壁の色がかわりやすくなることで自然の色にも馴染みやすい。

□構造
グラウンド、プール、体育館
学校に付属するグラウンド、プール、体育館をつくる。体育館などの壁は学校内や周辺にある公園で遊ぶ。周辺にある公園(グラウンド、プール、体育館)も自然の色に近い色で塗ることで、壁の色にも馴染む。



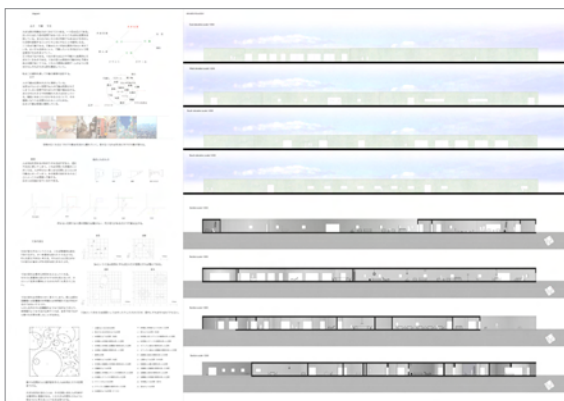
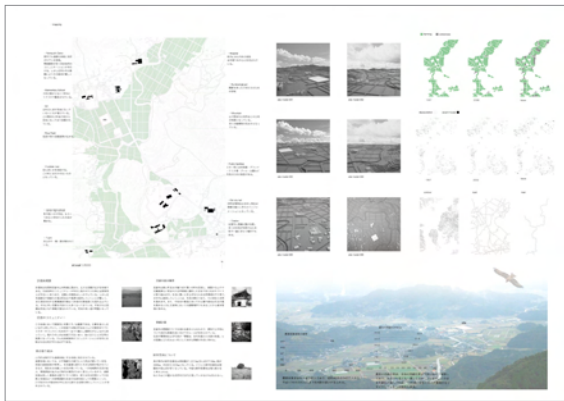
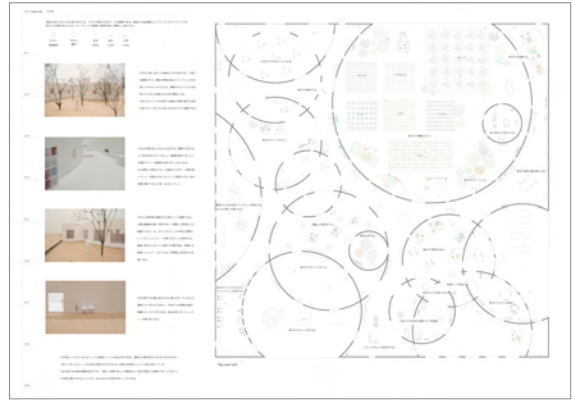
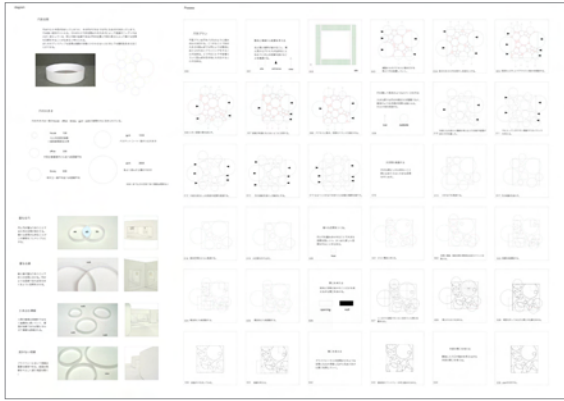
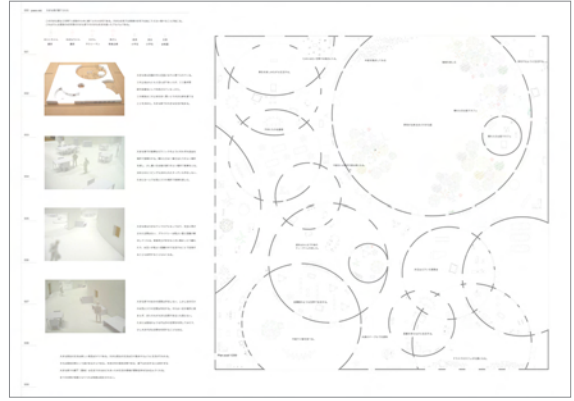


10. 大きな家 ～農村の新しい風景～

成松 仁志
NARIMATSU Hitoshi
建築歴史研究室

現在の住宅は利便性や機能性を追及し住宅は小さくなった。このような合理化された住宅は日本住宅の中心となったが生活は窮屈になってしまった。本計画では過疎化する地方の広大な土地に目を向け、これからの住宅のモデルとなるような大きな家を

計画する。大きな家は住宅で行われる出来事の可能性を広げるためのケーススタディハウスである。大きな家で起こる出来事の中に本当の豊かさを発見する。萱葺き屋根が昔の風景であったように大きな家は農村の新たな風景となる。



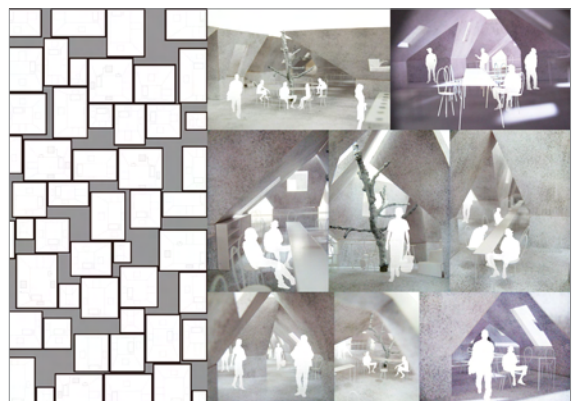
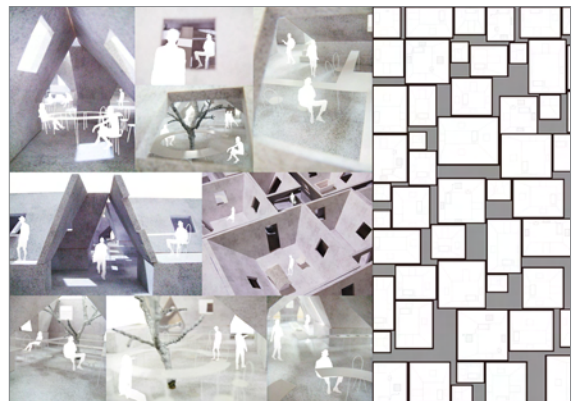
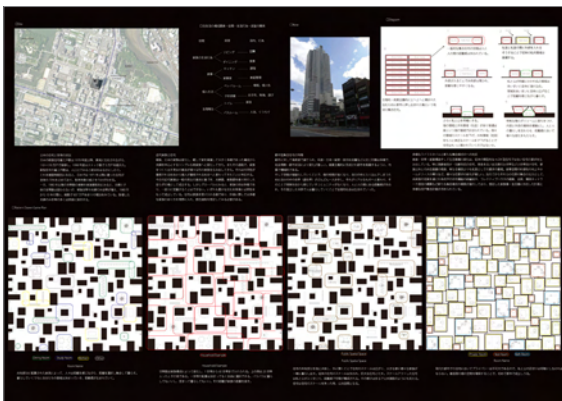
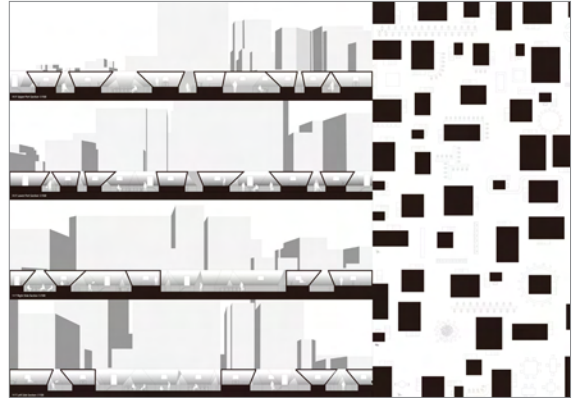
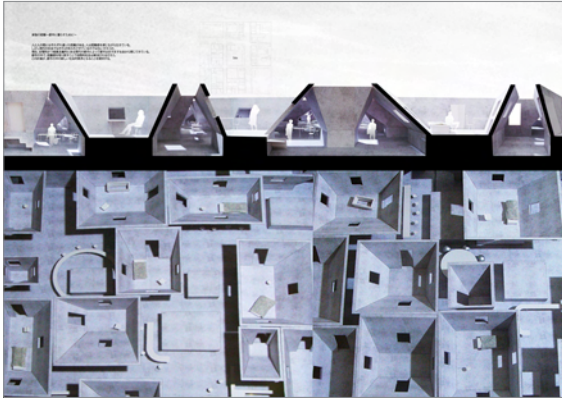


11. 家族の距離 ～都市に暮らすために～

平川 紘司
HIRAKAWA Kouzi
建築歴史研究室

合理的・商業主義的につくられた都市で暮らす人々は距離感を失い、自閉的社会が生まれた。現代の都市には失われつつある人の間に存在する距離感を取り戻し、家族と隣人との関係を都市において集合して暮らすことで都市での新たな暮らし方を提案

し、人の中にある距離感を取り戻すことで、その距離感が社会の秩序となり、自閉的社會を解消し、住宅が小さな社会となり、それが都市での価値観の新しいスタンダードになることを期待する。





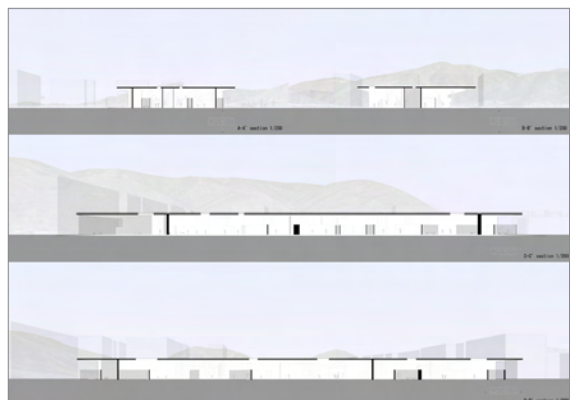
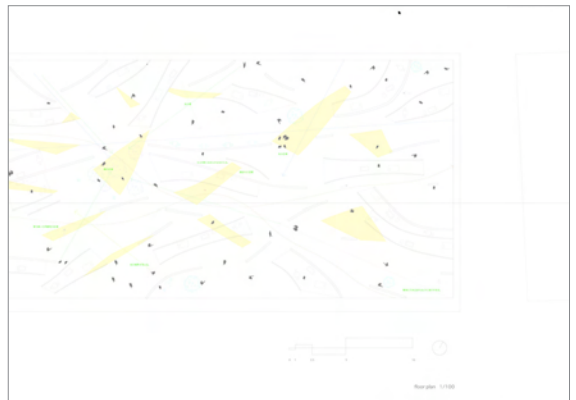
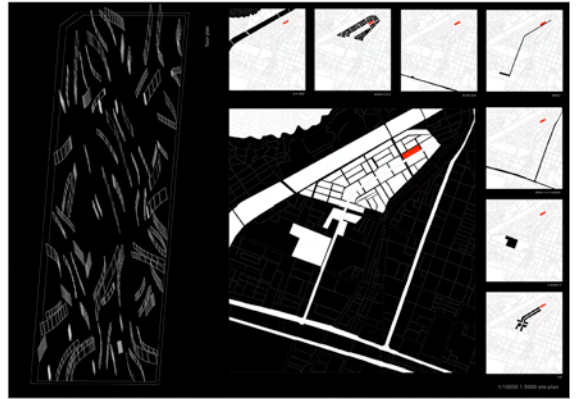
12. 感情流体

村上 賢宏
MURAKAMI Takahiro
建築歴史研究室

道の中にある集合住宅を設計する。

現代の住宅は敷地からセットバックし、柵をつけ、開口はあっても、主に内部空間への採光や換気のための開口だということができ、プライベートな空間 為だけのものとなっている。

そして、現代の道は通り過ぎるだけで目的地から目的地へ移動するための動線としての役割しか果たしていないと考える。住宅と道の距離が近くなることで、人は豊かな暮らしと出会うのではないだろうか。





安田 浩子
YASUDA Hiroko
建築歴史研究室

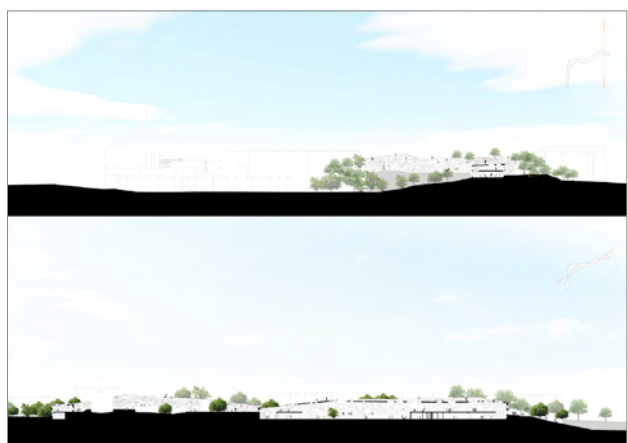
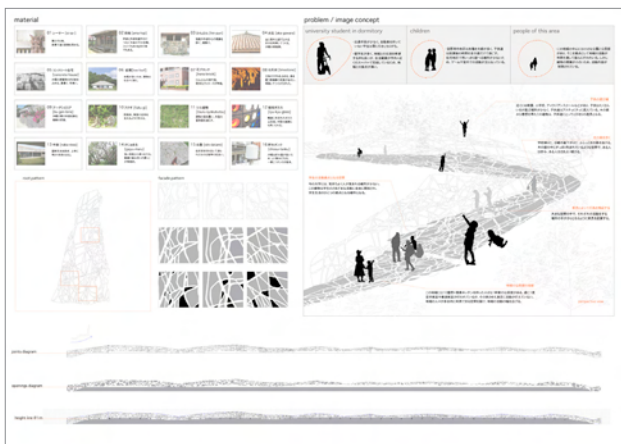
13. 木の下公民館 ～大学と地域をつなぐもの～

工学会賞 1 席

沖縄県宜野湾市志真志地区は、約 2000 世帯の地域の人々と、琉球大学や沖縄国際大学などの教育施設が共存する地域である。

本計画は、地域の人々が活動の拠点として、かつ学生の交流の場として新たに公民館を計画する案である。

コンクリート造の建物が時と共に浸食され、地に馴染む建築物となってゆく。この木の下公民館が大学と地域をつなぐ柔らかな境界となり、人々の活動の拠点として、かつ学生達のステーションとして活発に利用されることを期待する。



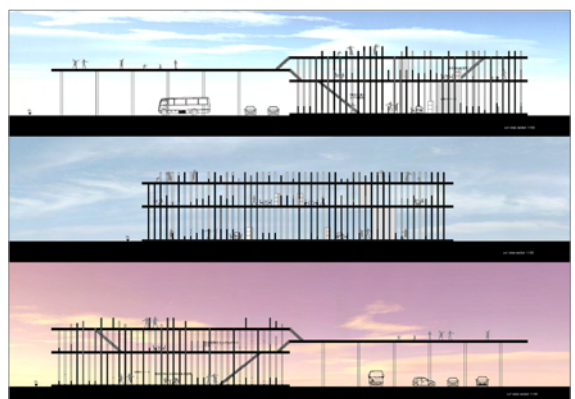
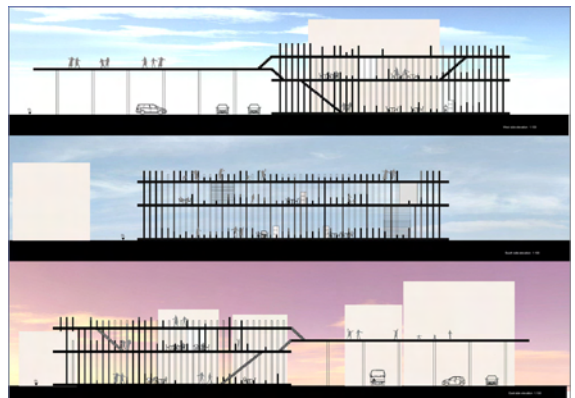
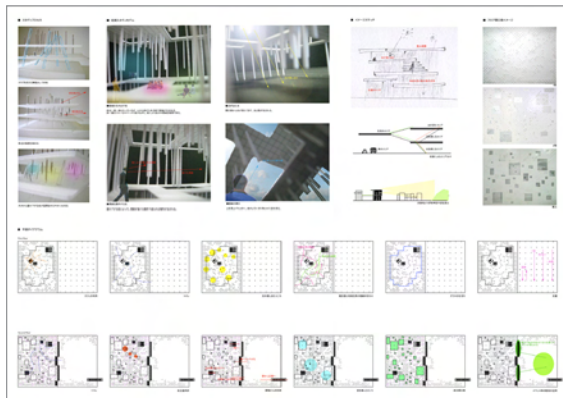
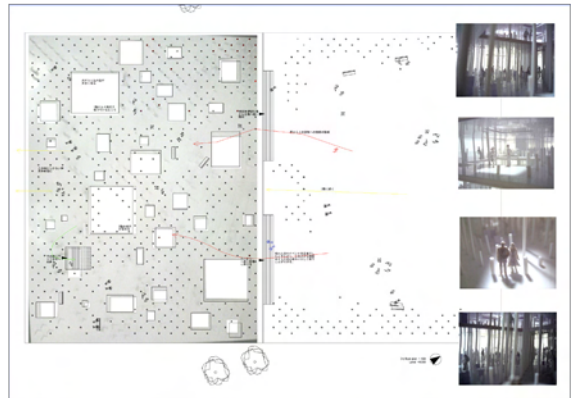
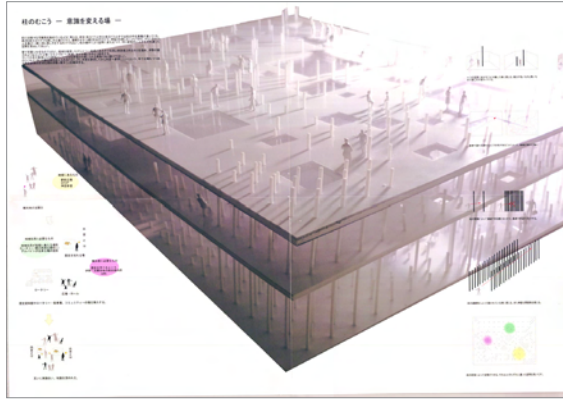


14. 柱の向こう ～意識を変える場～

山本 紘子
YAMAMOTO Hiroko
建築歴史研究室

歴史と伝統のある伊勢市。この町で観光客が最も多く利用する駅である伊勢市駅の駅前は日常と神宮という非日常の空間をつなぐ中間的存在であると言えるため、伊勢神宮の存在感や神聖さを感じ、学び・情報を交換し、観光客と地域住民の交流を深め

る場ことや伊勢の魅力をより伝えられる場を提供したい。柱の境界の意識や連続性などによりそれらの空間をつくりだす。そして今では薄れつつある外宮を参拝してから内宮へ行く流れを取り戻すことを期待する。





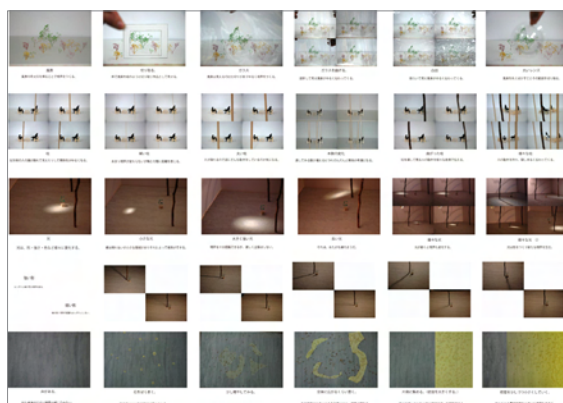
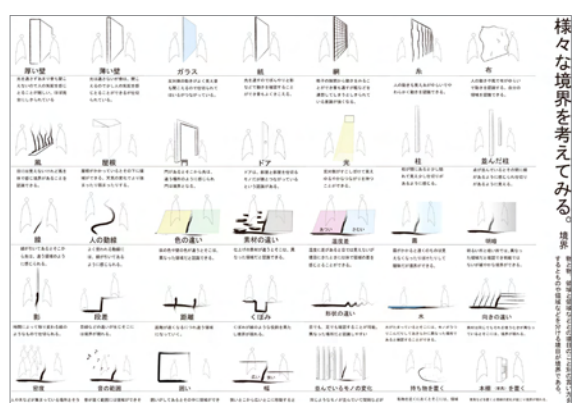
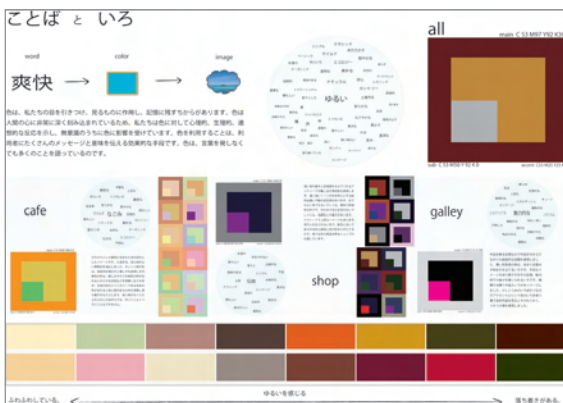
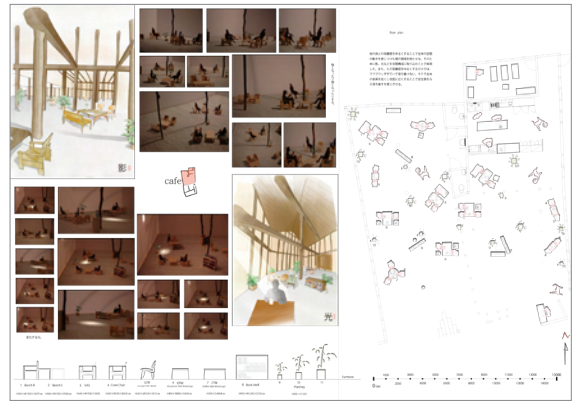
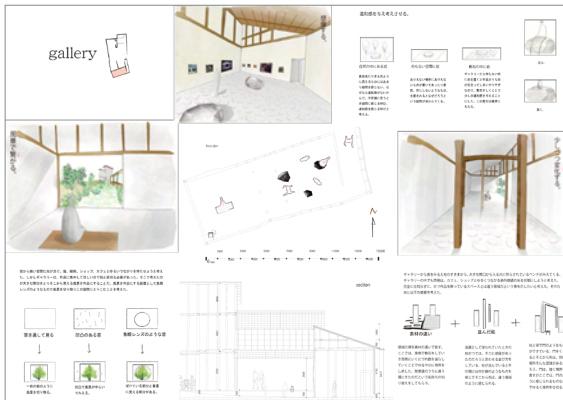
井山 傑
Iyama Takeshi

空間創造研究室

15. Conversion ~境界のあり方~

物置になってしまっている酒蔵からカフェへの用途転換を行う。酒蔵として構成された空間なわけでそれを他の用途に使うとそこにはムダが生じる。そのムダを付加価値に転化し酒蔵の個性を新たな空間に取り込むことがコンバージョンの最大の魅

力である。この計画により従来のスクラップアンドビルドがもたらす環境への高い負荷を減らす方法としてのコンバージョンの有効性が高く評価されることを願う。





16. 砂浜にある保育園

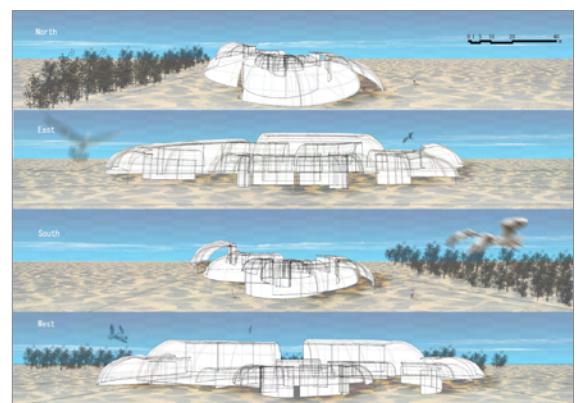
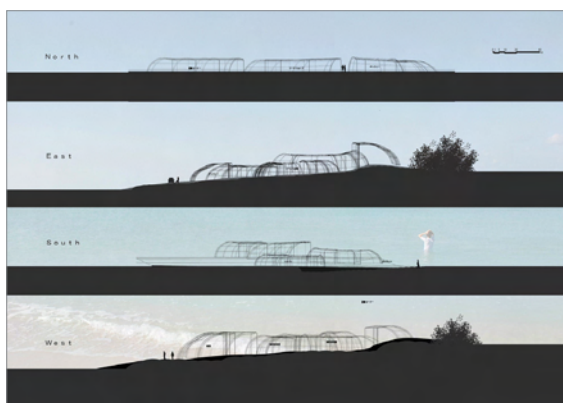
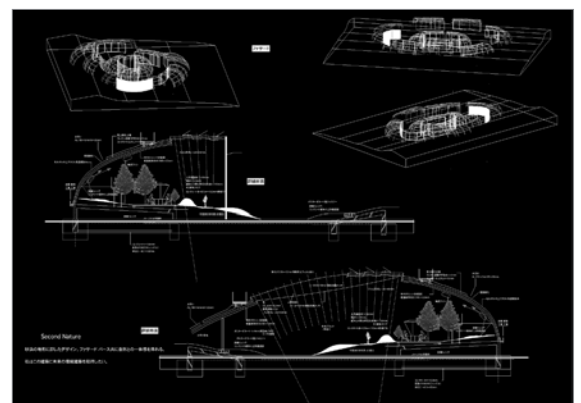
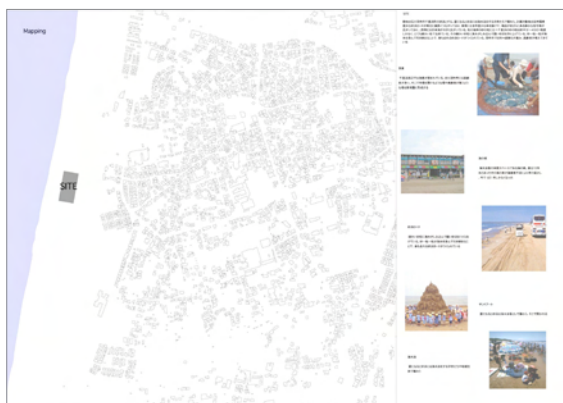
遠藤 拓也
ENDO Takuya

空間創造研究室

今の子供たちは遊び方を知らない。昔の子供たちは自然の中で自分たちオリジナルの遊び方を見つけていた。

しかし、今の子供たちはテレビゲームや漫画といった家の中に閉じこもって遊ぶ傾向がある。それでは子供たちの発想力をか

き立てることが出来ない。本計画は園児が自然との関わりを持ちながらも社会性を学んでいける保育園を提案する。





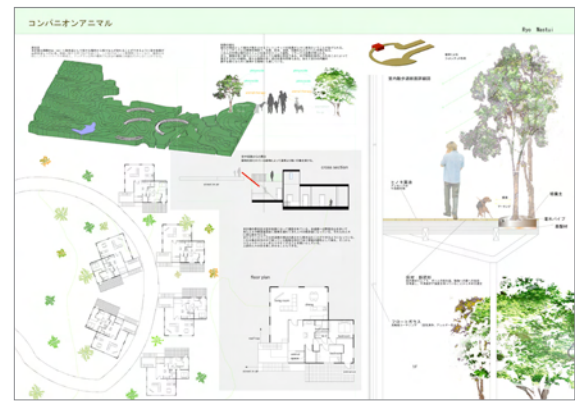
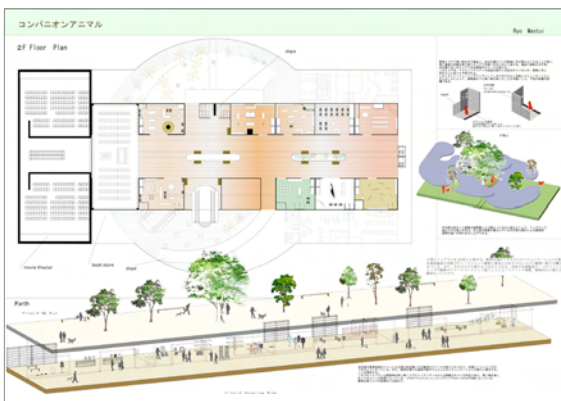
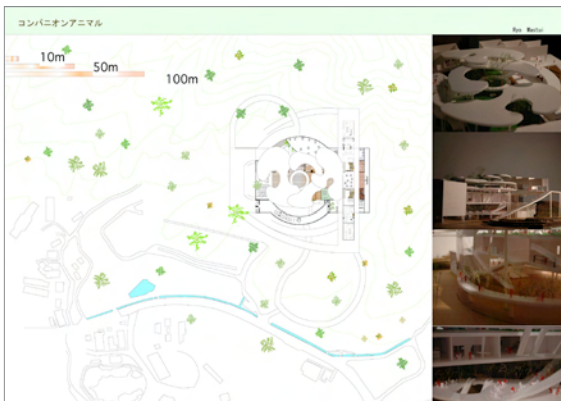
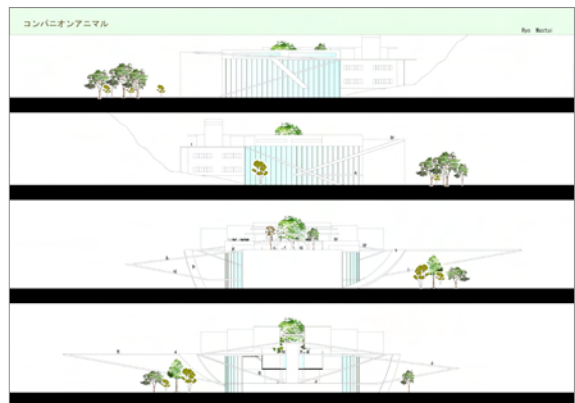
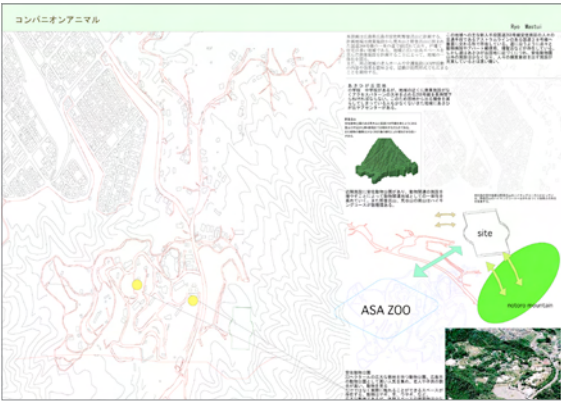
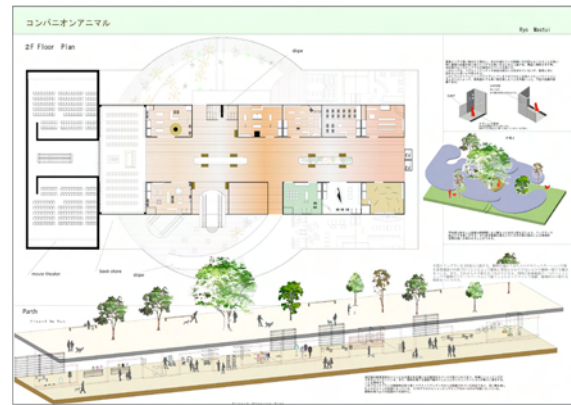
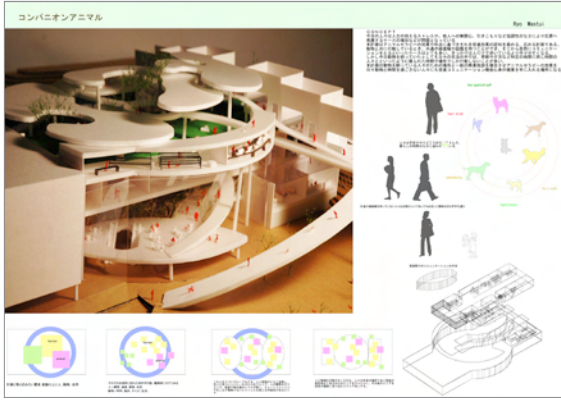
17. コンパニオンアニマル

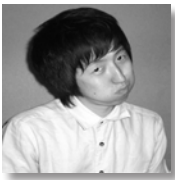
松井 遼
MATSUI Ryo

空間創造研究室

本計画は人々の生活にコンパニオンアニマルの介入の利点を活かし、現代社会のコミュニケーション不足などを解決していくものである。人々は共通の話題や価値観から自然とコミュニケーションをとり、知り合いとなっていくケースは多い。このよう

な効果をもつ一つの場所に集め、さらにはアニマルセラピーの効果で心身の健康を手に入れる。同時に現在の日本ではまだ少ない動物の立ち入れる新たな公共施設として新たな社会の形に繋がることを期待する。





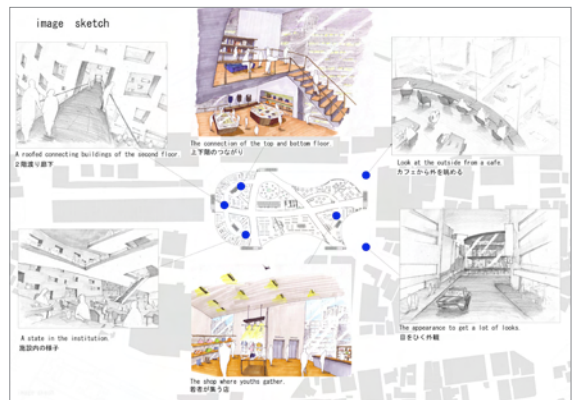
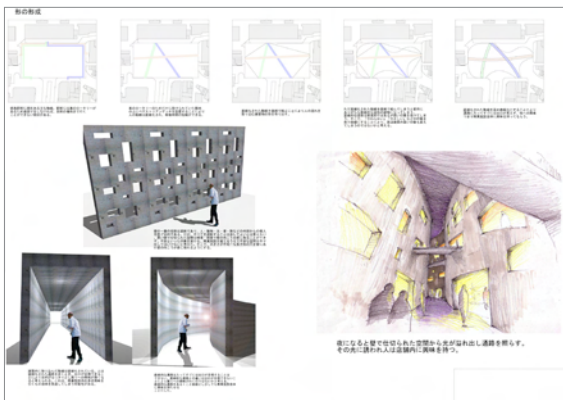
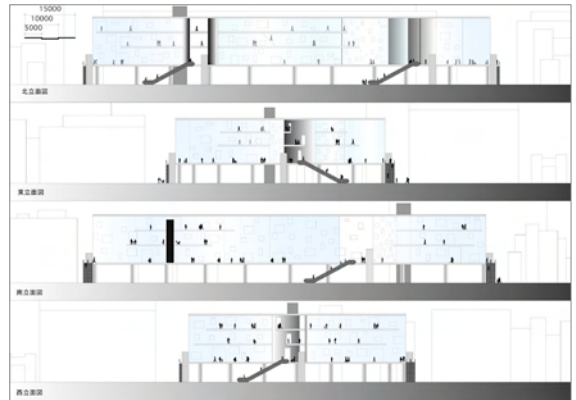
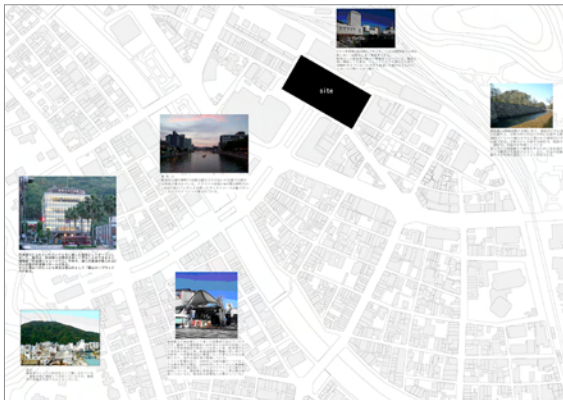
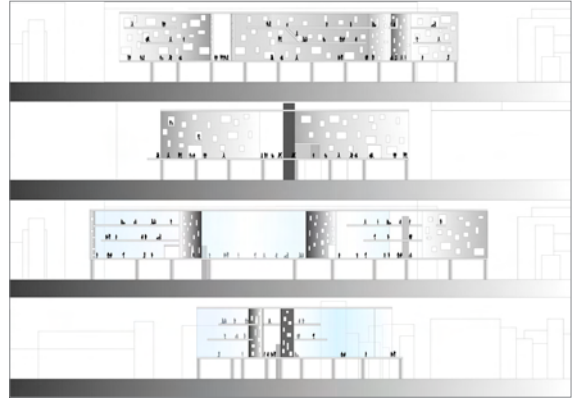
18. 渡る建築 ～行きかう人と人～

鈴木 達也
SUZUE Tatsuya

空間創造研究室

本計画では、商業施設の魅力の一つに通路としての機能を取り込んだ建築を提案した。商業施設に通り道を建築内に取り入れることにより、そこには常に人が行きかい賑わう場所になる。賑わいのある商業施設は周辺にも賑わいをもたらす衰退すること

を防げるのではないかと考えられる。駅前という影響力の大きな場所から誘発される街全体のアクティビティへ繋がる商業施設となることを期待する。





19. 和洋折衷 ～Localism への回帰～

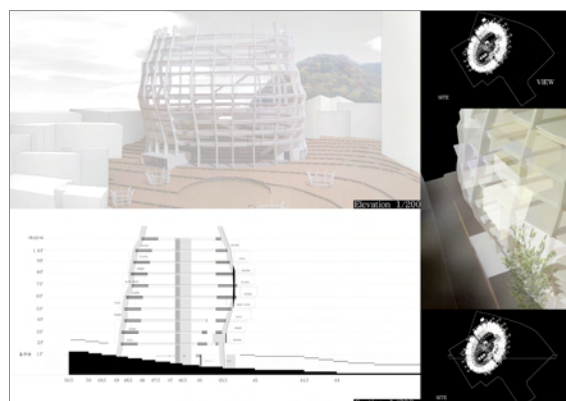
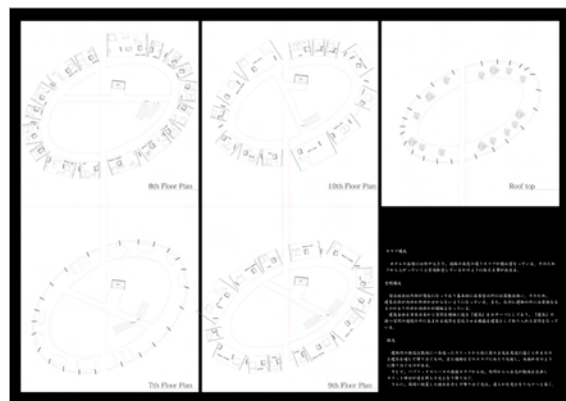
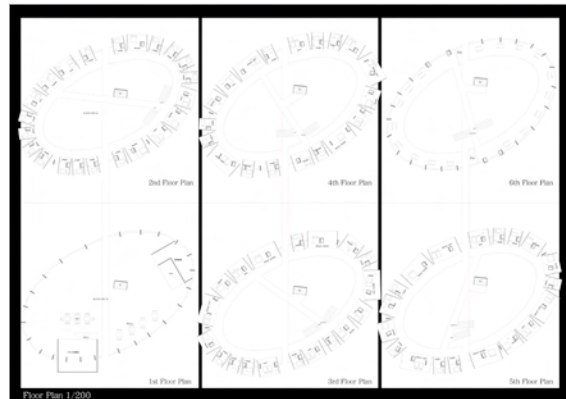
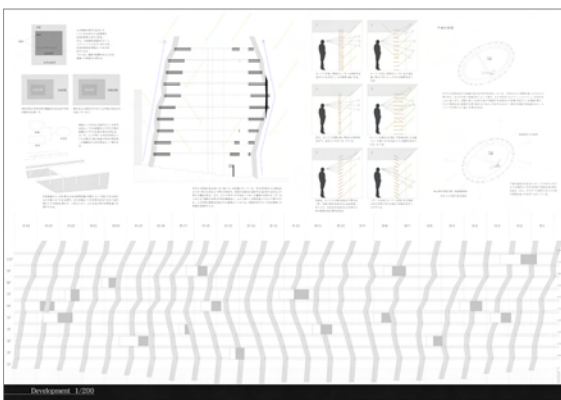
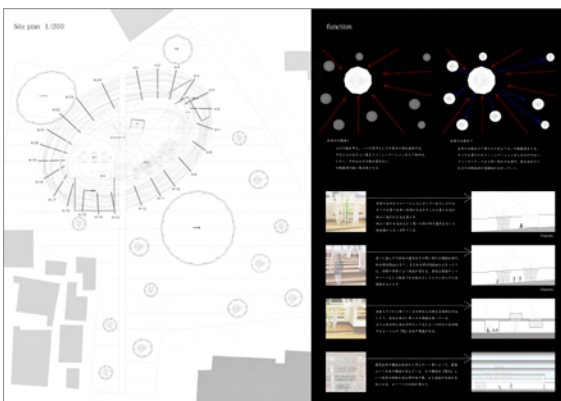
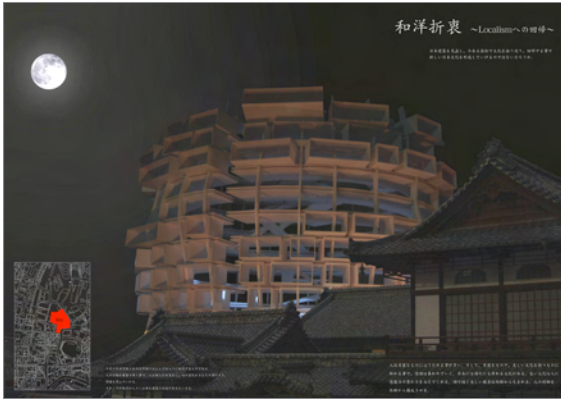
石丸 謙二郎
ISHIMARU Kenjiro

建築計画研究室

人と建築との繋がりを深く考え建築の可能性を見出す事を機能面ではなく感情的な面からアプローチし、考えた計画である。そのため人の情緒を育むという新しい目的のための建築の想像と、人々へ能動的行為を働きかけるというまるで生きているかの

ような建築を生み出す事が可能になる。

本来、使われる側だけの建築に能動性を持たせる事を考え『見せる』『移動させる』など、人に行動を誘発させる事の可能性を呈した計画である。





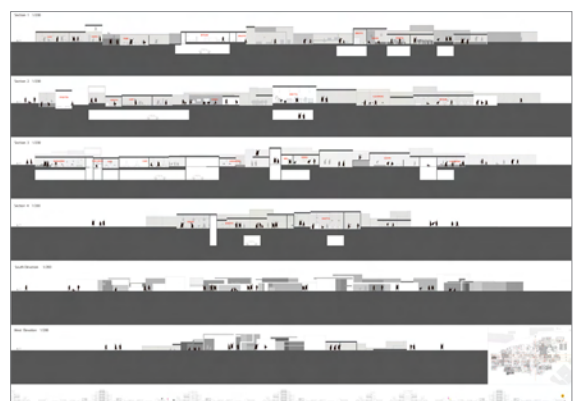
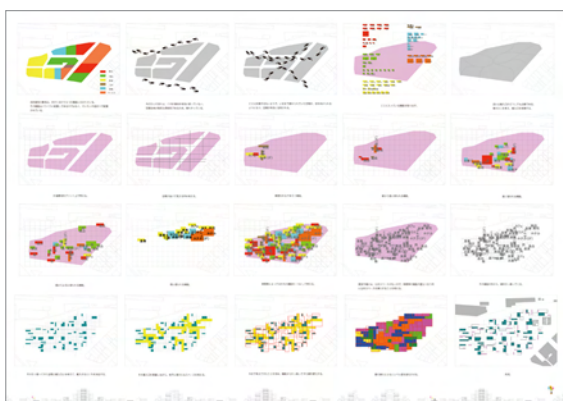
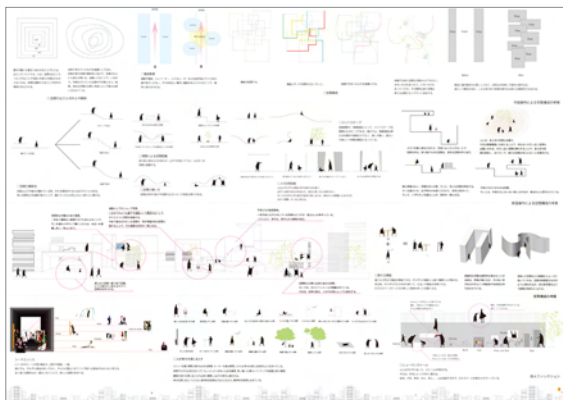
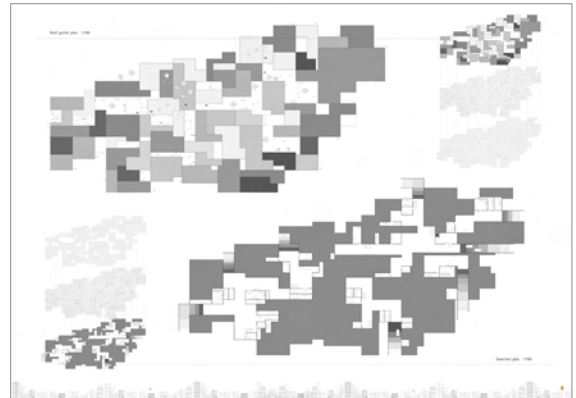
平町 好江
HIRAMACHI Yoshie
建築計画研究室

20. 重なるの先に見えるもの ～機能の連続性による商業空間の新たな提案～

工学会賞 3席

本計画では、広島市内のもっとも多くの人が行き交う場所に、店や交流スペースや公園などの機能を有する商業施設を計画し、新たな商業施設のあり方を計画するものである。人と商業との関係が希薄となっている現代の商業空間を改善し、地域、周

辺環境と融合したものを計画することによって、空間同士がリンクすることによる、人と場との新たな関わりとなる空間を提案する。





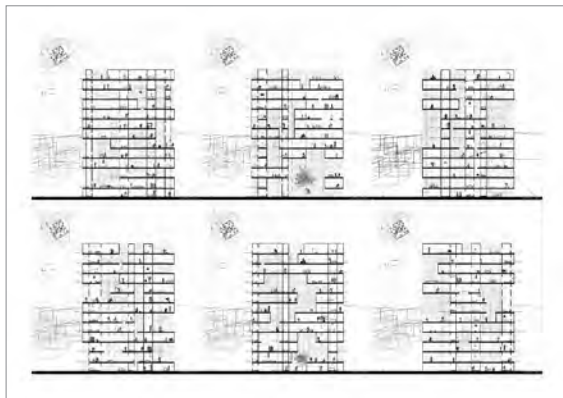
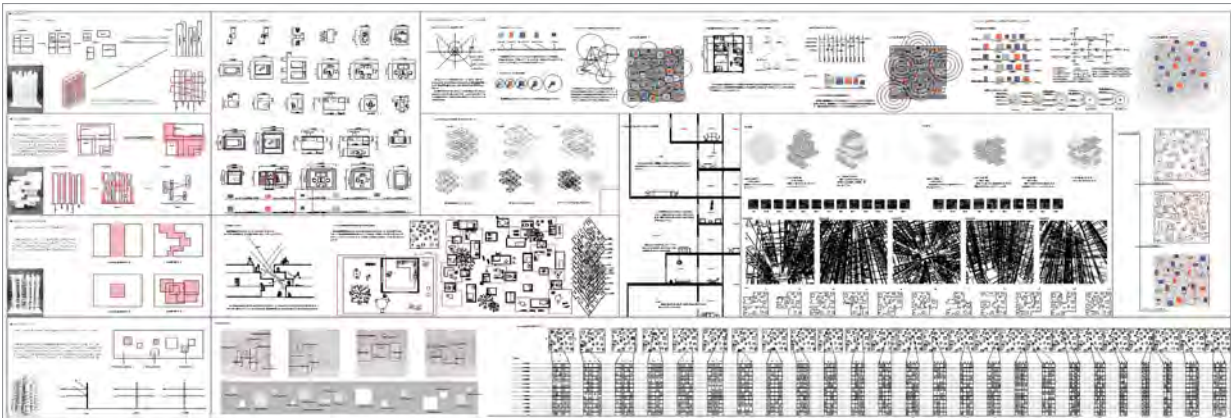
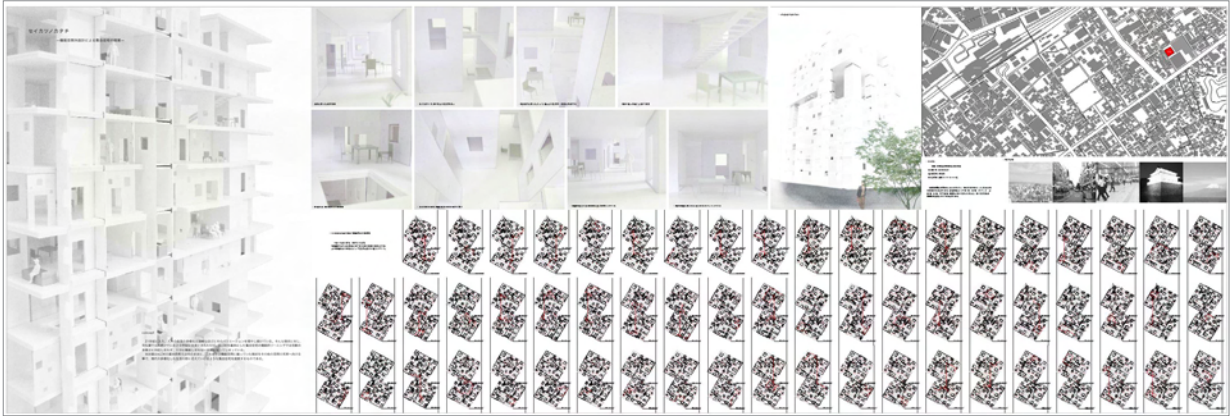
増田 晋
MASUDA Sin

建築計画研究室

21. セイカツノカタチ ～機能空間外設計による集合住宅の提案～

様々な状況を生み出す他空間は、生活の多様化によって機能空間から溢れ出す様々な行為、活動を許容していく。また、そんな環境に囲まれた機能空間にも変化をもたらし、人々の生活行為の多様化に応じていく。

これまでのnLDKの考え方、生活スタイルの変化を与え、機能的ゾーニングからその他空間へと計画する場所の視点をずらすことで新たな生活空間が構築されていく。集合住宅の新たなカタチとして提案する。





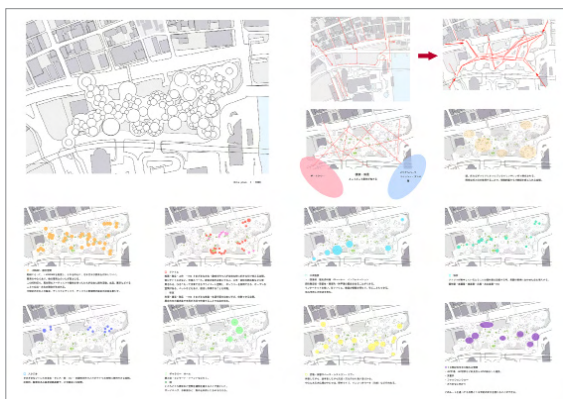
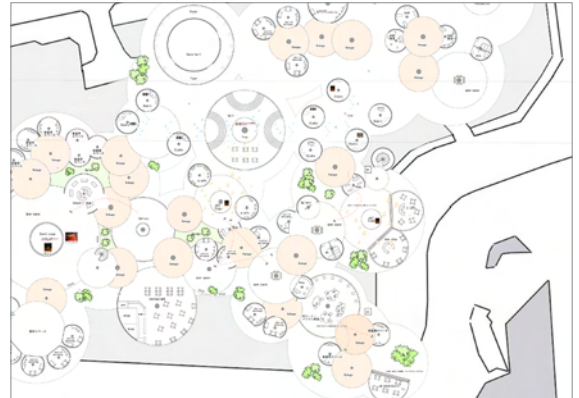
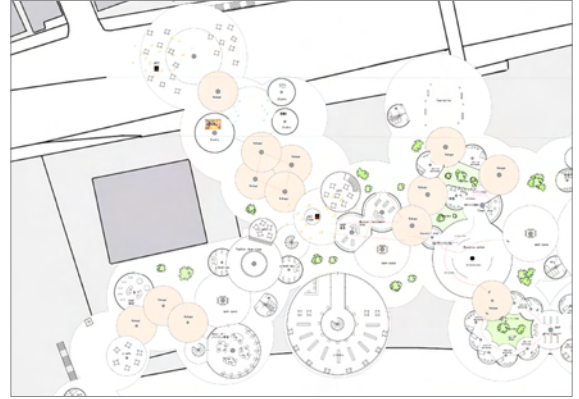
22. 21+19 ～KOKAGE という空間～

弓削 則人
YUGE Norihito

都市計画研究室

本計画は元町に、かつての活気を再び呼び戻すため、地元住民・観光客・アーティスト等が好きな時に、自由に集まり情報交換、地域交流、文化交流ができる『KOKAGE』という交流空間と19世紀に生み出し発信してきた文化に触れることができる歴史的空間

間とを併設した複合施設を提案するものである。





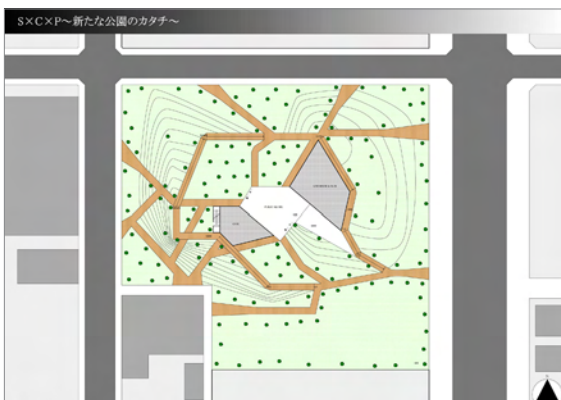
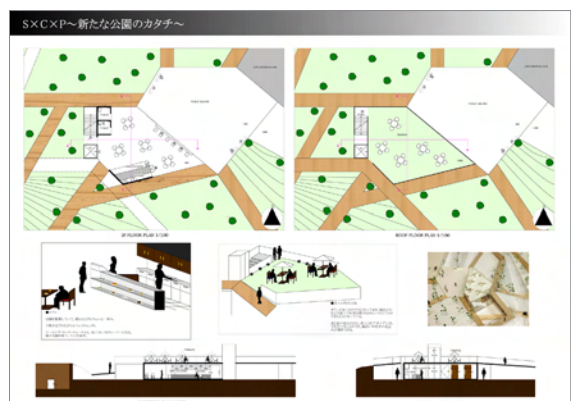
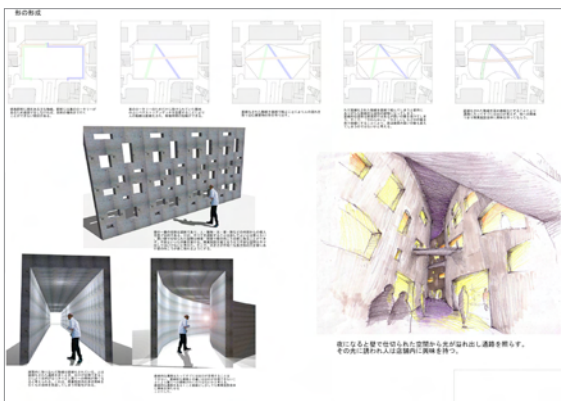
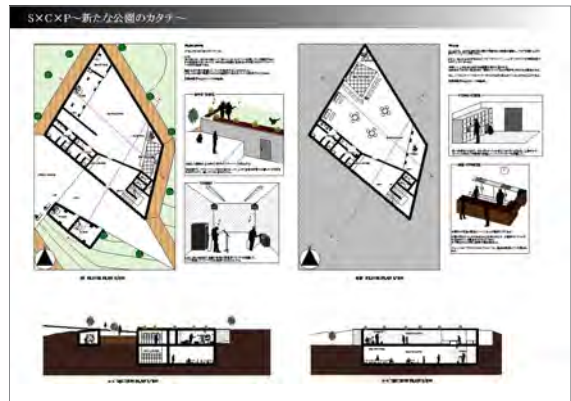
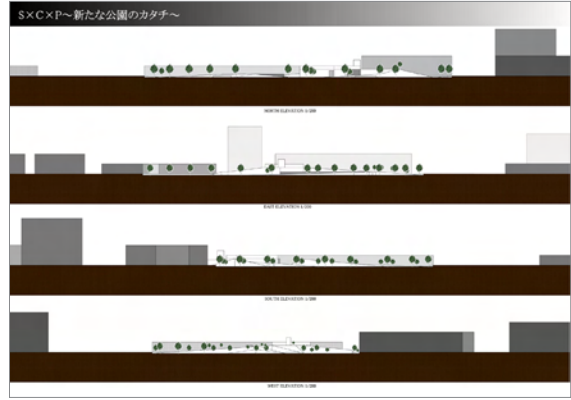
23. S × C × P ～新しい公園のカタチ～

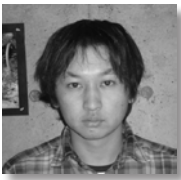
三羽 智彦
MIWA Tomohiko

都市計画研究室

公園というモノはどの場所にもあり、不自由で無個性なモノが溢れかえっている。本計画は公園という公共施設の新たな可能性の模索と、公園とまち・ヒトの新たな関係性を追求したモノである。今回は西条中央公園という場所を選び、そこに根ざした

機能などを盛り込んでいったが、公園のある場所や規模などによって、求められる公園の意義は変わってくるはずである。今回の計画を行う事によって、日本にありふれた公園という施設をもう一度見直す機会が生まれることを期待する。





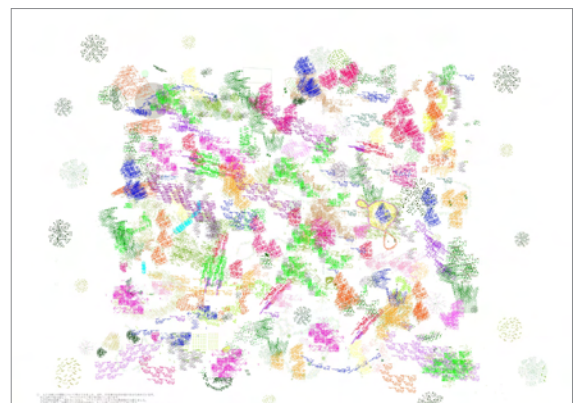
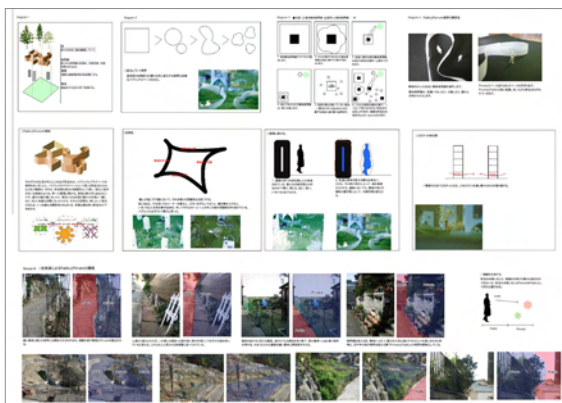
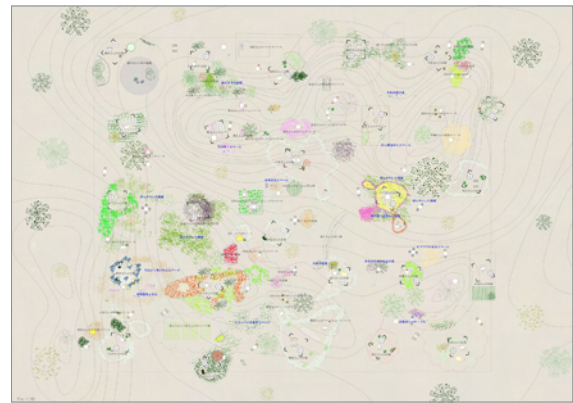
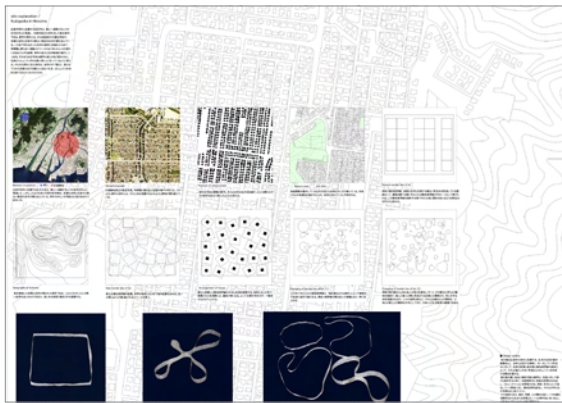
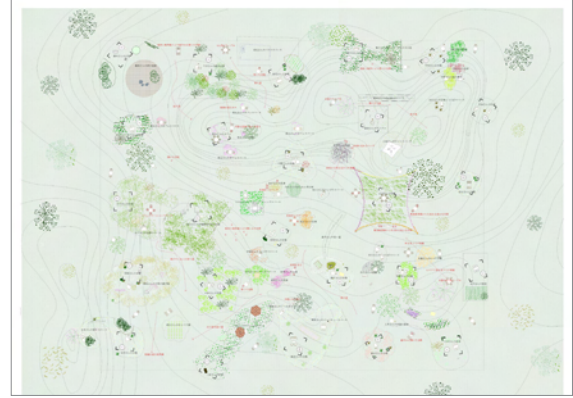
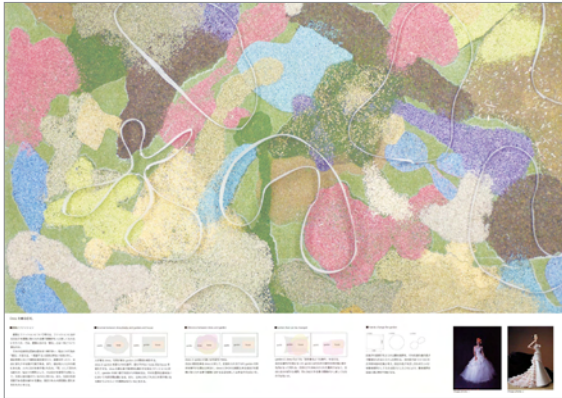
24. Dress を着る住宅。

石井 健太
ISHII Kenta

環境設計研究室

ファッションの面白さを建築に取り入れる事を考えた。街を歩くと、穴の空いたトレーナー、破れたジーンズ、髪を巻き上げたりと、個性に溢れている。そんな街の雰囲気を感じた時、パブリックとはこういう事だと感じた。

そんな雰囲気を街並みに再現してみようと思った。計画するのは郊外住宅地。自由を手に入れた住宅達は、パブリック溢れる町並みを作っていく。





25. 野菜生活 ～ポーアイに農があること～

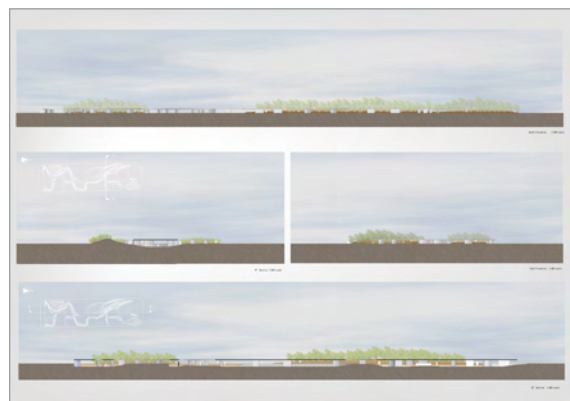
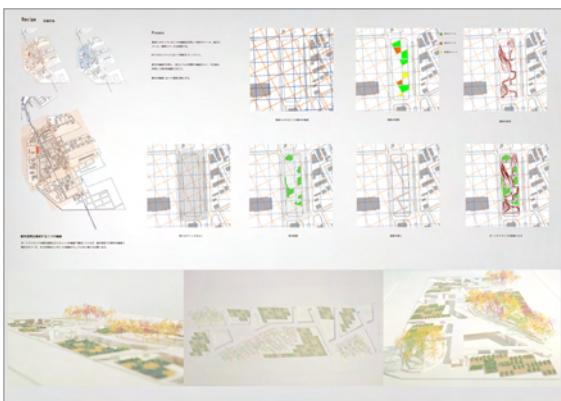
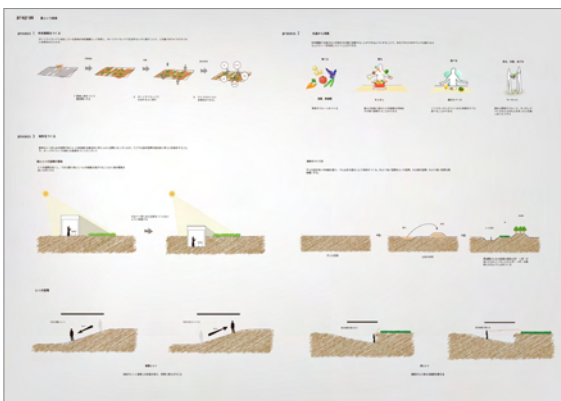
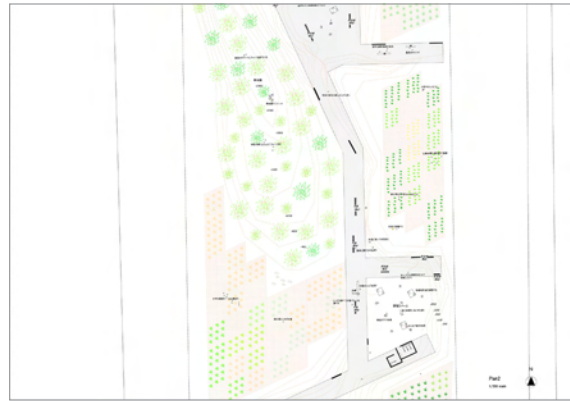
今井 優
IMAI Masaru

環境設計研究室

都会では色とりどりのネオンが輝き、地方ではウォーターフロントやリゾート開発が行われ、人々の心を映し出すかのように娯楽空間が求められた。しかしバブルの時代が終わり、多くの娯楽空間が社会から取り残されていく中、人々には時間を消費し

てまで娯楽を楽しむということに憶病になってしまっている。

そんな人々に対し、ゆっくりとした時間の中で喜びをつくりあげていく「農」という娯楽が、時間を消費することの楽しさを与えてくれる。





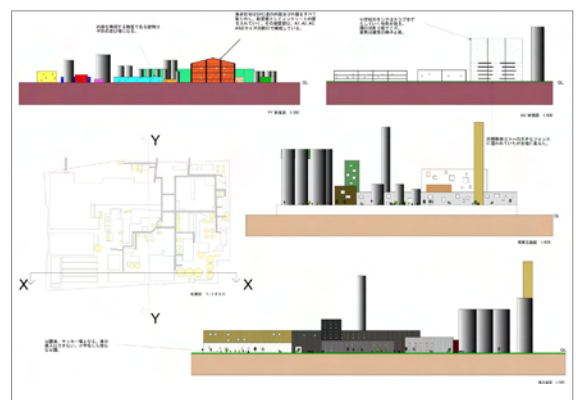
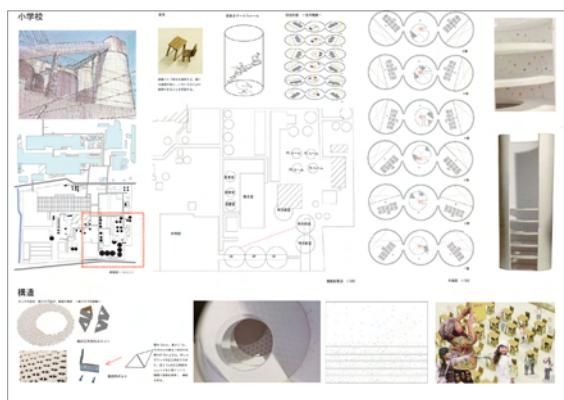
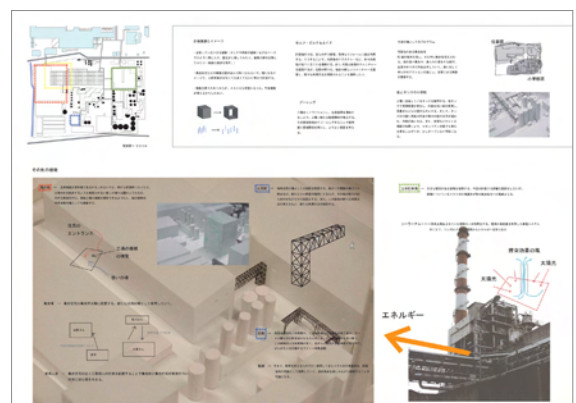
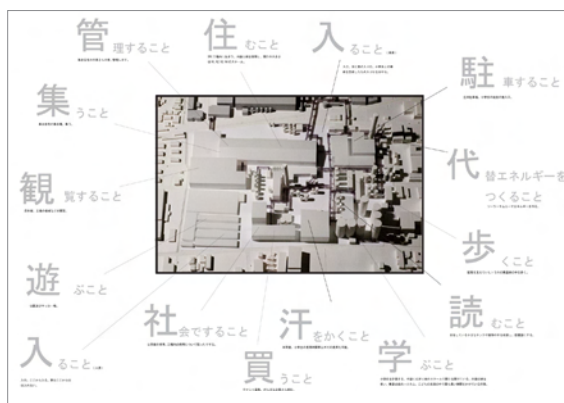
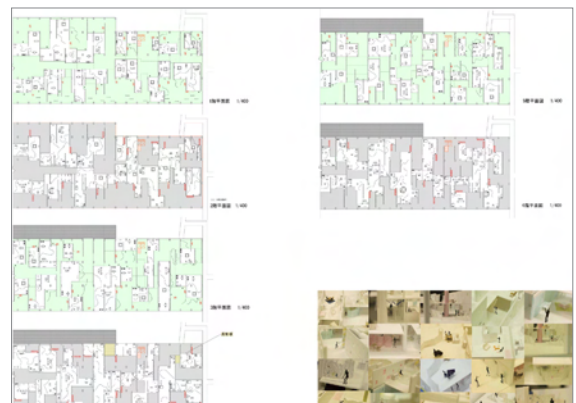
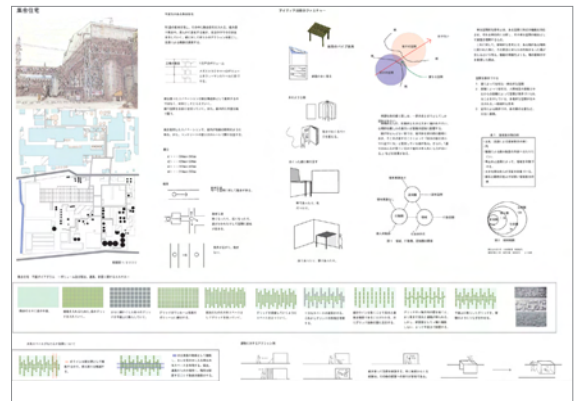
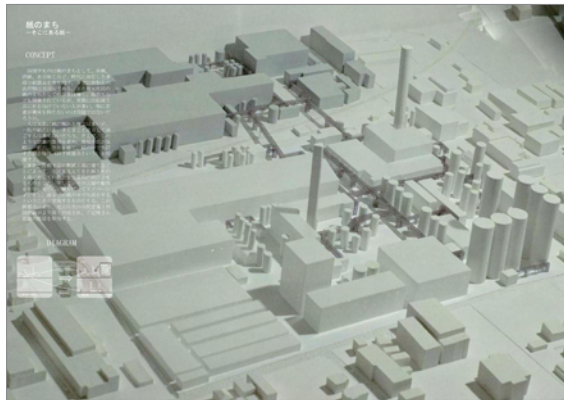
26. 紙のまち ～そこにある紙～

三好 勉
MIYOSHI Tsutomu
環境設計研究室

「紙のまち」として紙製品を作り続け、紙製品の出荷額は全国一のまちがある。住民の「紙のまち」としての自覚は強いが、実際には伝統工芸に目を向けていない人が多い。

人は実際に紙に触れる機会が多いが、一

枚の紙だけを、まじまじと注目して過ごす人は多くないだろう。このような認識の改善を求め、地域住民が気軽に「紙」の存在を感じ、紙の中で生活する複合施設を提案する。





27. デキスギ ～ Design's Key point is "SUGI" ～

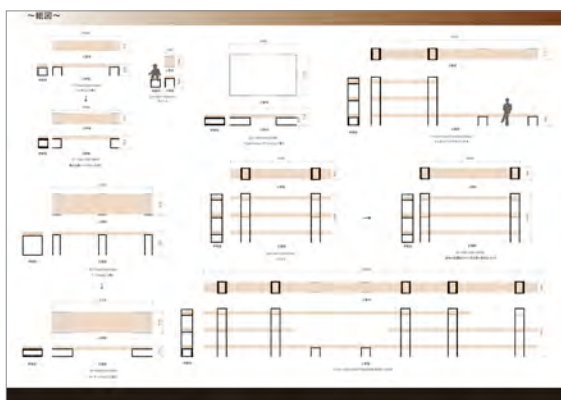
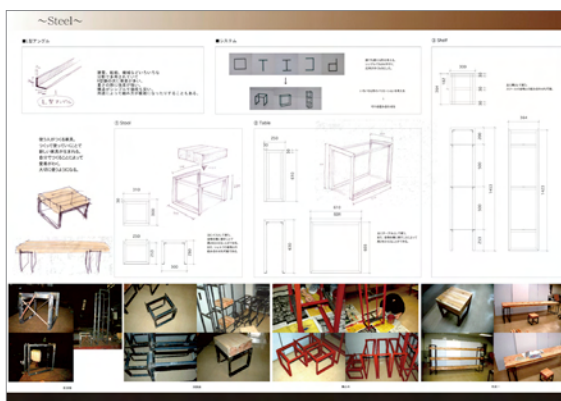
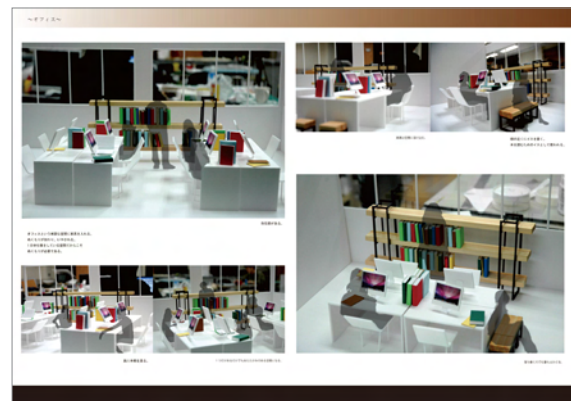
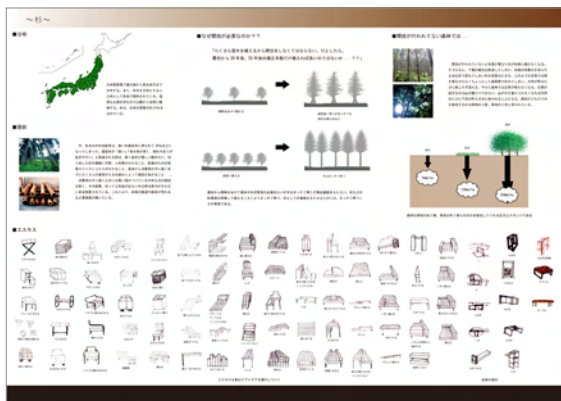
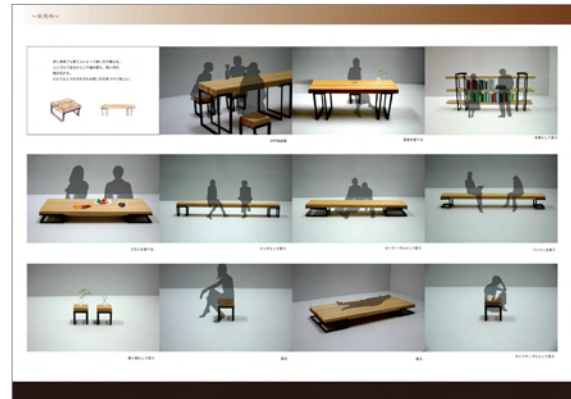
日本インテリアデザイン学会中国・四国支部長賞

黒田 知世
KURODA Tomoyo

空間創造研究室

現在、世界では森林伐採が問題になっている。一方、日本では国土の3分の2が森林であるにも関わらず世界有数の木材輸入国である。日本の木材自給率は20%ほどになってしまっている。そこで、間伐材を使って少しでも自然のぬくもりが感じられ

る家具を提案する。この家具が普及することによって、日本の林業が活性化し、世界の森林伐採をくい止める一歩となることを期待する。





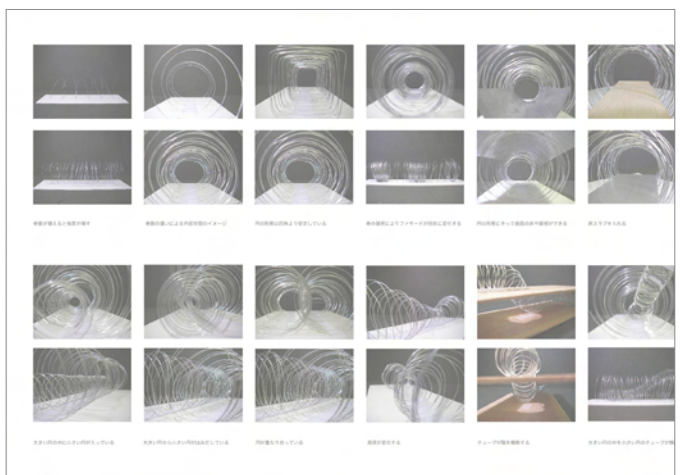
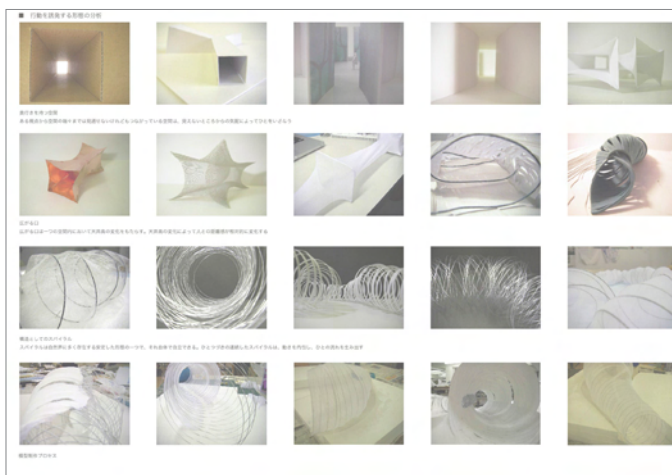
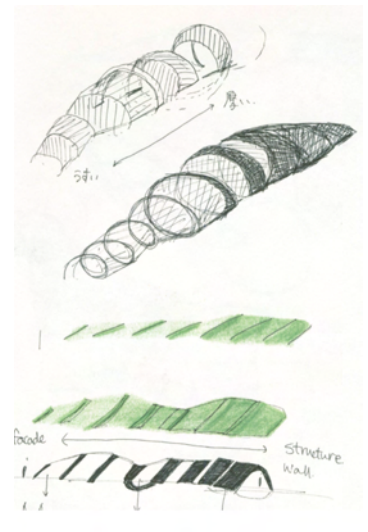
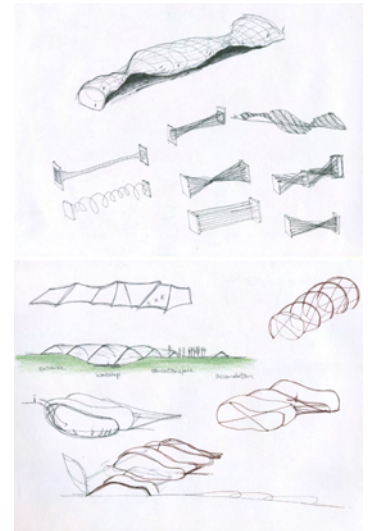
01. 重層と連続

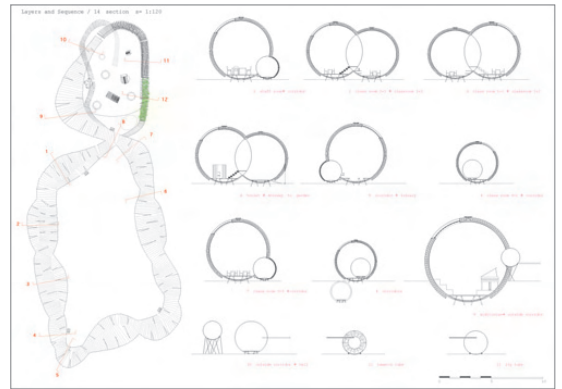
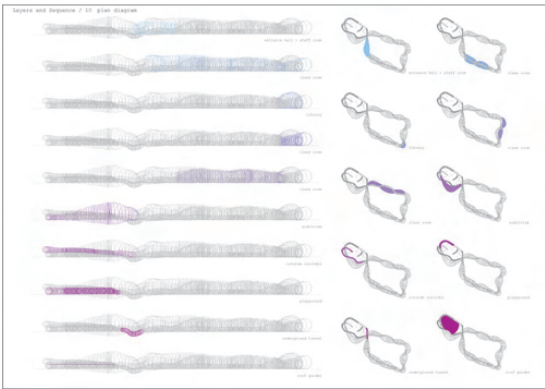
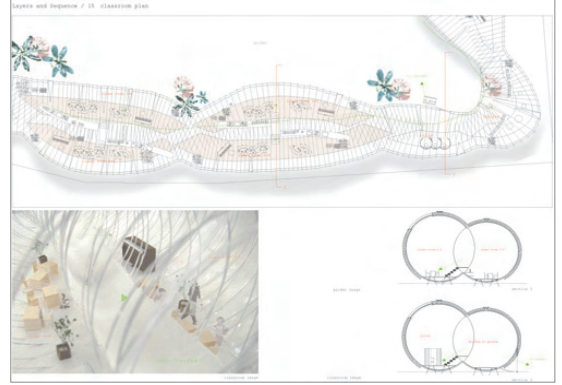
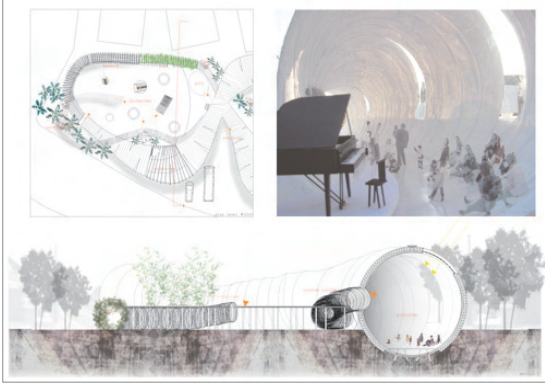
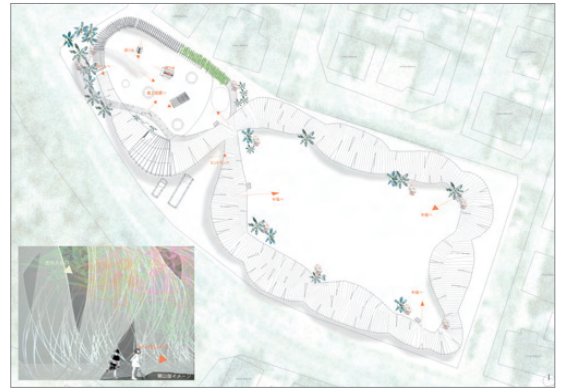
宮城 麗子
MIYAGI Reiko
建築意匠研究室

本計画は、変化に富んだ空間体験ができ、子供の行動を誘発し、日々新たな発見があるような幼稚園の提案である。

傾斜があると座りたくなる、奥が見えないとその奥へ進みたくなるといったような人の行動を喚起する形態の考察を通して、子供たちの感覚を刺激するような幼稚園を考えた。この幼稚園は、螺旋状の構造を持

つひとつつながりの連続したチューブ状の空間で構成され、従来のセキュリティを重視した管理者目線の計画ではなく、子供の行動や遊びを誘発しながら、管理も行き届くものである。行き止まりのない、ひとつつながりのチューブには、風や光、音と同時に子供たちのアクティビティの流れが生み出される。







02. 表徴の境界

胡麻田 悟史
GOMADA Satoshi
建築意匠研究室

表徴から生まれる仮想の住戸境界による集合住宅の提案。現代社会で生活する人々は何よりも他者との関係や距離感の回り方に敏感であると考えている。他者との領域を分ける境界を、空間と空間を仕切る要素としてではなく、空間を繋ぐものとして捉え、現在の高密度化する都市住宅において、インターフェイスとしての境界の可能性を見

出すことを目的とした提案である。本計画では、階段室の様な小さな住戸から共有スラブに生活が溢れ出していく。個人が仮想の境界を通じ住戸周辺とスラブを共有することにより、他者と離れていながらも繋がっている関係性から自由な距離感の選択と偶然性を両立した空間は集合住宅のひとつの原型を作り出す。



Diagram
小さな住戸から生活が溢れ出していく。それにより自分の領域を得て出す。ここには自由な距離感の選択と偶然性も繋がっている関係性が



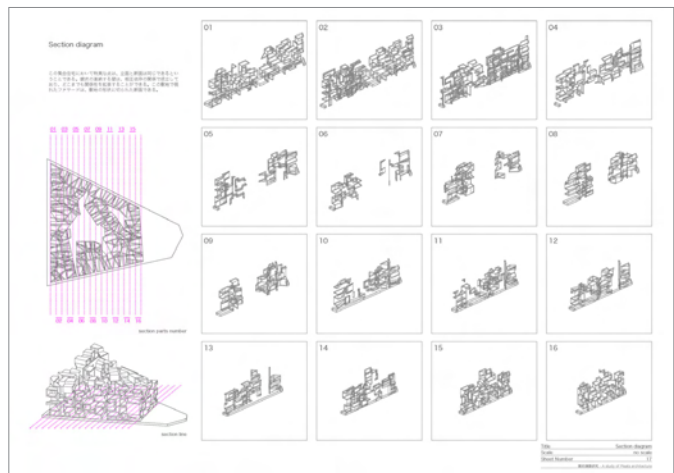
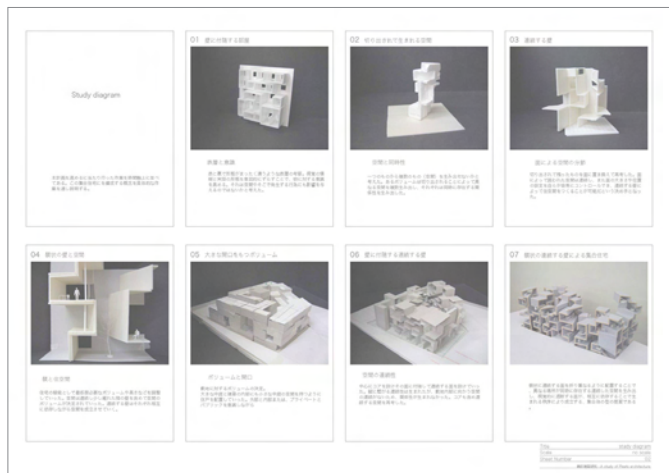
03. 襞的建築研究

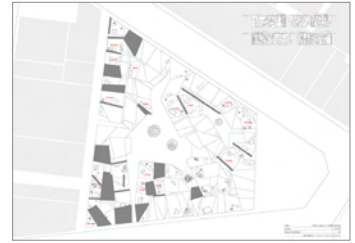
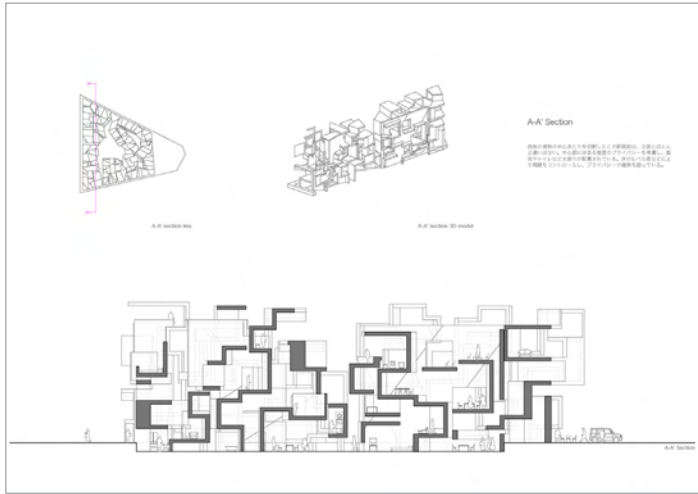
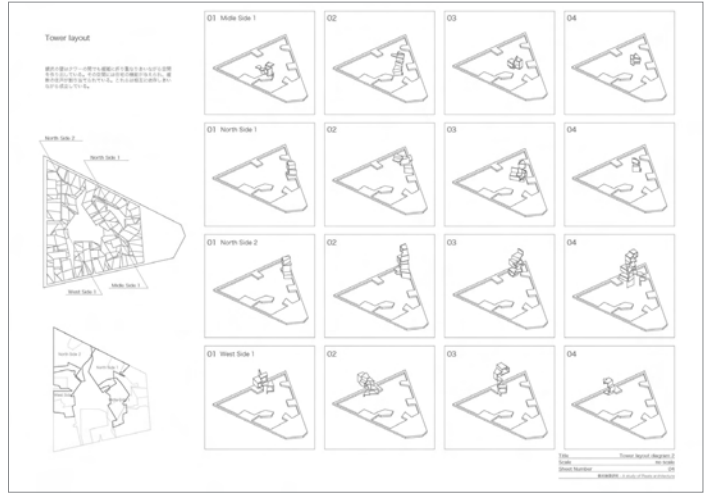
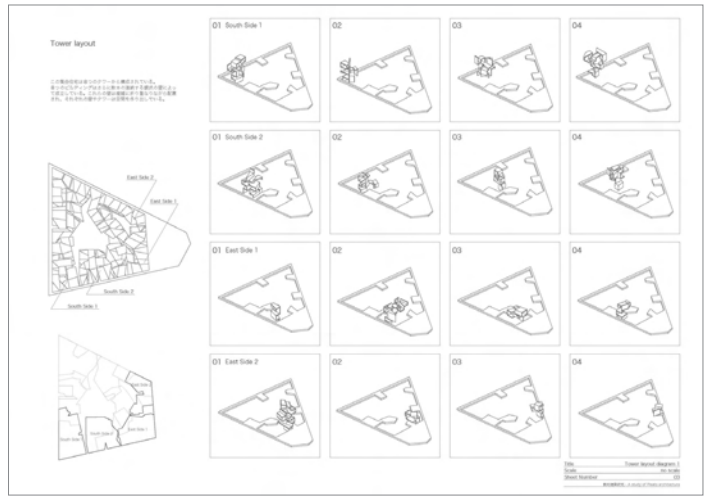
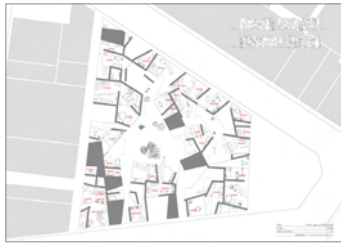
松井 俊樹
MATSUI Toshiki

建築意匠研究室

複雑な関係性を持つ現代社会において、一つの要素が欠けること、要素間の関係が途切れることは、全体の構成を揺るがすことになる。しかし、さまざまな要素が同時多発的に存在し、関係しあっている状態こそ、まさに自然の成り立ちそのものである。本計画は、襞状の連続する面によって構成する住空間の提案である。たくさんの襞

状の面は連続する空間と、異なる場所を生み出す。そして、お互いが同時に存在することによって秩序を生み出し、相互に依存し合いながら成立する、住空間として新しい集合体の型を提案する。これはマンション開発が未だ続く現代都市において、新たな都市居住のあり方を提示する糸口になると考える。





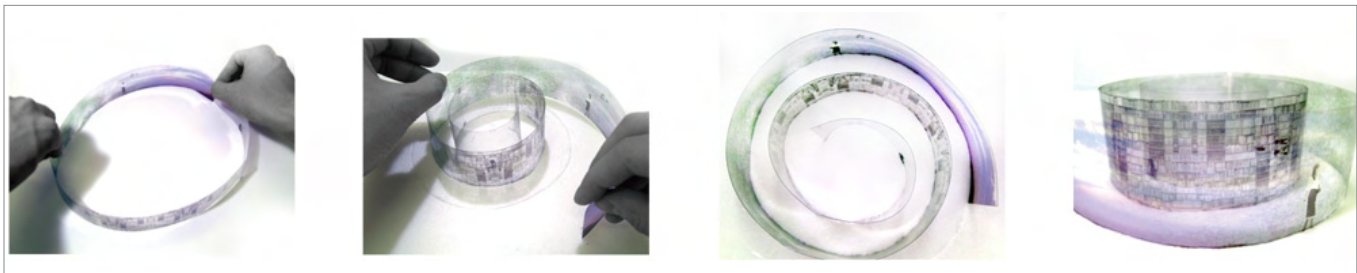
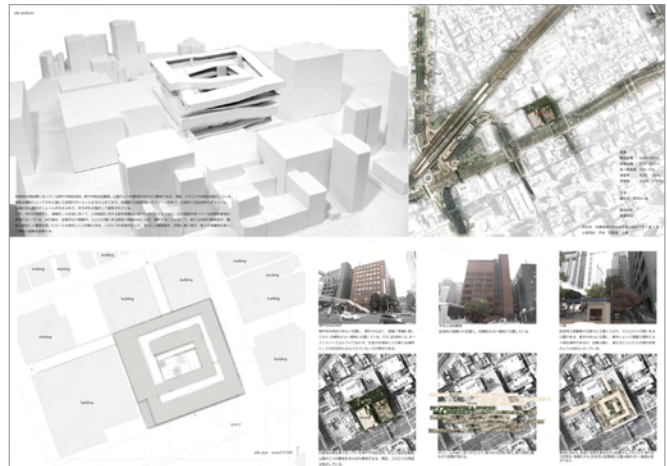
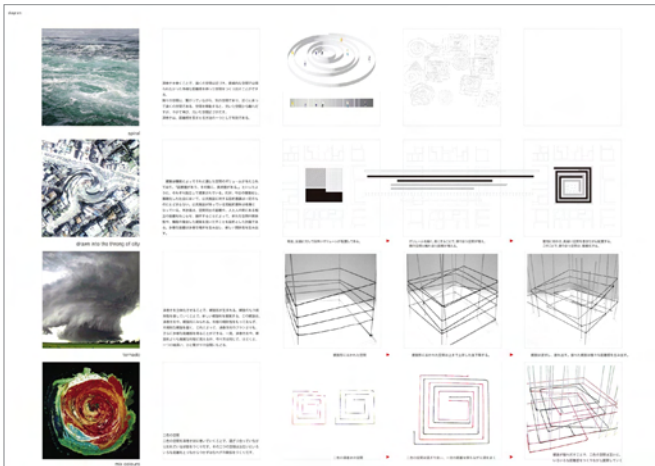


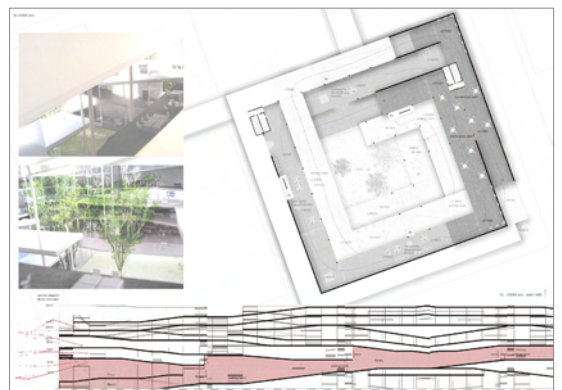
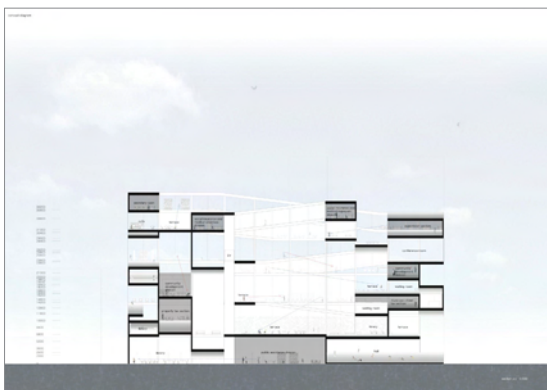
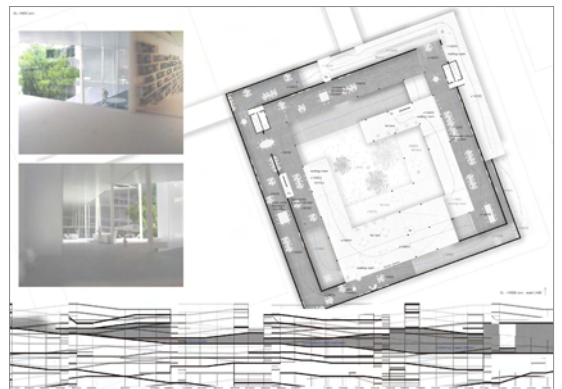
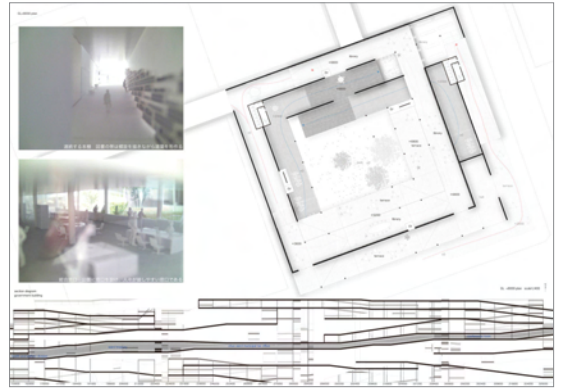
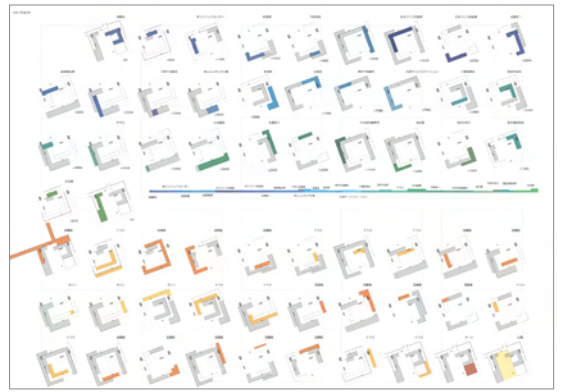
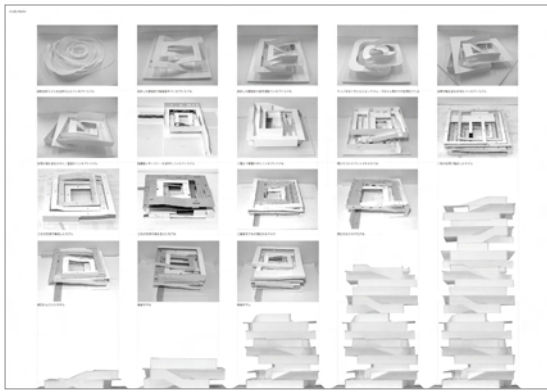
04. 螺旋回廊

山田 篤
YAMADA Atsushi
建築意匠研究室

距離とは、言い換えると関係性であり、多様な距離は多様な場所を生み出し、新しい関係性を生み出す。距離感とは、人間の誰もがもっている感覚である。建築を設計する際、それは寸法やボリュームとして建築に現れるのである。言い換えると、距離とは 人と建築との関係性であり、距離により建築は形作られていると考える。

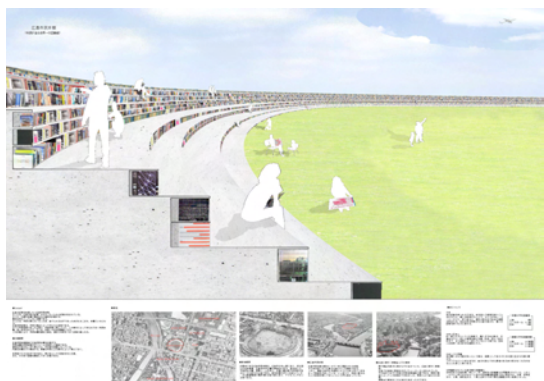
本計画は、情報化ともなう新たな距離感を考察し、空間同士の距離や、人と人の中にある相互の距離をねじらせ、操作することによって、新たな空間の関係性や、機能の複合した建築を見いだすことを目的とした計画である。





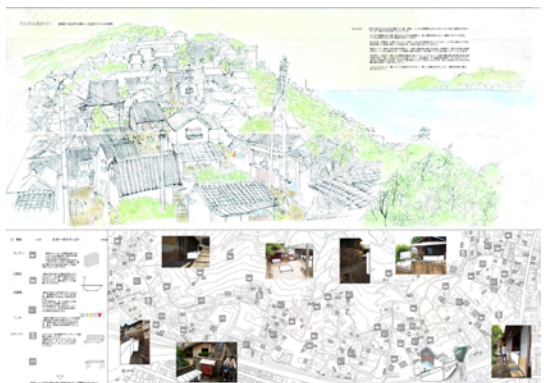
2008 年度 日本建築学会設計競技 課題「記憶の器」 佳作+タジマ奨励賞

タイトル：広島市民本棚～市民が造る世界一の図書館～ 作者：山口和紀（4年），岡本麻希（4年），高橋磨有美（4年）



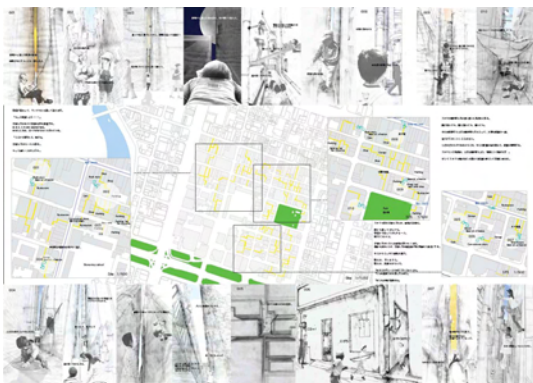
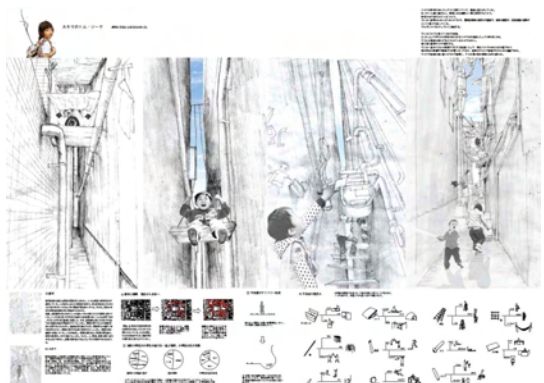
2008 年度 日本建築学会設計競技 課題「記憶の器」 タジマ奨励賞

タイトル：だんだん住みつく～路地から生まれる新しい生活スタイルの発見～ 作者：成松仁志（4年），松田尚子（4年），安田浩子（4年）



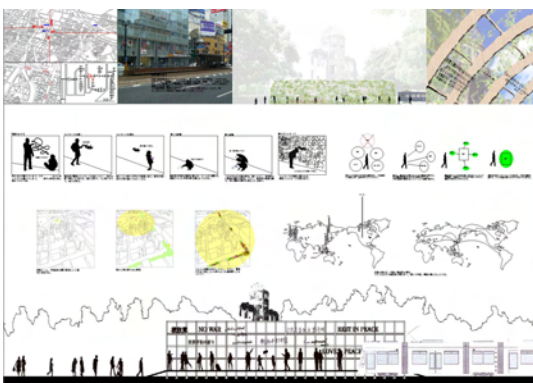
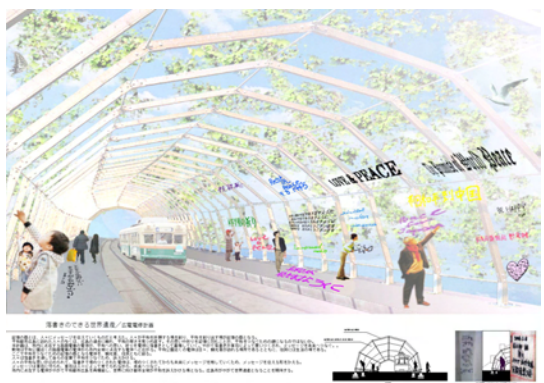
2008 年度 日本建築学会設計競技 課題「記憶の器」 タジマ奨励賞

タイトル：スキマのトム・ソーヤ～都市と子供の上手な付き合い方～ 作者：平町好江（4年），安藤美有紀（4年），中田庸介（4年）

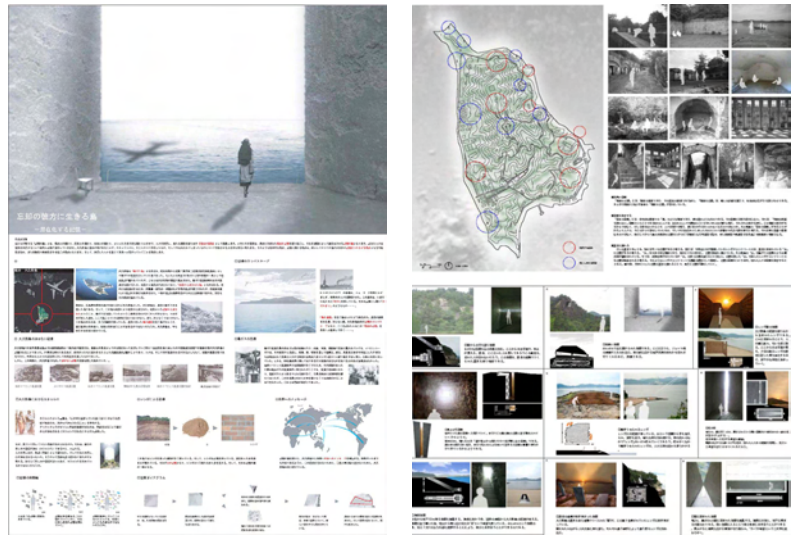


2008 年度 日本建築学会設計競技 課題「記憶の器」 支部入選

タイトル：落書きのできる世界遺産～広電電停計画～ 作者：矢ヶ部史明（4年），平川紘司（4年），邑上恭子（4年）



2008年度 日本建築学会設計競技 課題「記憶の器」 支部入選
 タイトル：忘却の彼方に生きる島～潜在化する記憶～ 作者：柳川雄太 (M1), 城納剛 (M1), 古田靖幸 (M1)

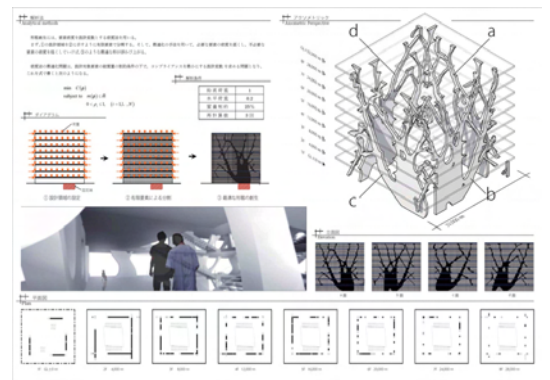


第35回五三会建築設計競技
 課題：もてなしのうつわ 最優秀賞
 タイトル：asimoto light
 作者：石井健太 (4年)

東芝エレベーター主催 未来エレベーターコンテスト
 課題：未来の垂直・斜行交通 最優秀賞
 タイトル：Hydrovator ～都市を貫く、都市を繋げる～
 作者：城納剛 (M1), Robert Willam Nimmo (M1)



コロキウム構造形態の解析と創生 2008 形態創生コンテスト 2008
 課題：自然界に着想を得て、構造のかたちを創生する 入選
 タイトル：Living Tree
 作者：植田大貴 (4年), 鈴木聖明 (M2)



2008 年度 近畿大学工学部建築学科作品集

平成 21 年 (2009 年)5 月 第一刷

発行 近畿大学工学部建築学科
〒 739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺 1
tel 082-434-7000 fax 082-434-7011
<http://www.archi.hiro.kindai.ac.jp/index.html>
編集 近畿大学工学部建築学科
印刷・製本 三原プリント株式会社

本書の全部または一部の複写・複製等を禁じます。

Copyright (C) Kinki University, All Rights Reserved, 2009